

第2次安曇野市環境基本計画

令和5年度 年次報告書

2024年3月

安曇野市

目 次

1	年次報告書について	1
1-1	目的	1
1-2	記載事項	1
1-3	留意事項	1
2	第2次安曇野市環境基本計画について	2
2-1	第2次環境基本計画の中間見直し	2
2-2	環境基本計画の基本事項	2
2-3	安曇野市がめざす環境のすがた	2
2-4	望ましい環境をつくるための取り組み	2
2-5	第2次地球温暖化対策実行計画	2
2-6	計画の推進体制と進行管理	2
3	安曇野市環境行動計画（2023—2027）について	2
4	安曇野市環境基本計画実施計画書について	3
5	2023（令和5）年度の取り組み	3
5-1	安曇野市環境審議会	3
5-2	環境基本計画の推進	3
5-3	環境行動計画の推進	4
5-4	環境指標達成状況	3 5
5-5	参加と協働	3 6
6	その他	3 7
6-1	安曇野市環境基本計画庁内調整会議	3 7
6-2	安曇野市生物多様性アドバイザー	3 7
6-3	安曇野環境市民ネットワーク	3 7
7	参考資料	4 1

1 年次報告書について

1-1 目的

[安曇野市環境基本条例](#)（以下「条例」という）第10条に基づき、市の環境の現状や環境の保全と創造に関して行った施策について公表するものです。市の環境の現状や課題、この一年の取り組みについて市民・事業者の皆様と情報共有するとともに、その評価や反省点を今後の施策の展開につなげていくことを目的としています。

1-2 記載事項

[第2次安曇野市環境基本計画](#)（以下「基本計画」という）、環境行動計画2023-2027（以下「行動計画」という）に基づき、本市が2023（令和5）年4月1日から2024（令和6）年3月31日までの間に取り組んだ環境に関する施策の実施状況を記載しています。

なお、省エネ・省コストを考慮し、以降の記載は前述の条例・計画の参照を前提とし、基本計画で定めた環境指標の状況や、行動計画において重点的に取り組むものとして選定された全29のプログラムの経過と結果を簡潔に記載するものとします。

本書の記述についての不明な点や取り組みの詳細は、基本計画のほか、安曇野市里山再生計画等の環境に関連する個別計画及びそれらに基づく報告書を参照していただくか、各取り組みの担当課までお問い合わせください。

1-3 留意事項

本書に記載の計画等は、市ホームページ上に公開されています。インターネット上で本書を閲覧されている場合は、初出の箇所（[青字](#)で記載）をクリックすると掲載ページへのリンクが開きますので、必要に応じてご活用ください。

2 第2次安曇野市環境基本計画について

2008（平成20）年に制定した[安曇野市環境宣言](#)を基本理念として、より良い安曇野の環境を実現するための行動指針となるもので、環境の保全および創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、望ましい環境のあり方や環境施策の基本的な方向性などを示しています。また、本市の最上位計画である[第2次安曇野市総合計画](#)を環境面から推進する役割を担っています。

2-1 第2次環境基本計画の中間見直し

第2次基本計画の改定の背景、方針、中間評価について記述しています。詳細は、基本計画第1章（P1-12）を参照してください。

2-2 環境基本計画の基本事項

基本計画策定の背景、第2次基本計画の基本的事項について記述しています。詳細は、基本計画第2章（P13-26）を参照してください。

2-3 安曇野市がめざす環境のすがた

安曇野市の環境づくりに向けて、望ましい環境像・基本目標、環境指標、計画の体系について記述しています。詳細は、基本計画第3章（P27-34）を参照してください。

2-4 望ましい環境をつくるための取り組み

取り組みの基本的な考え方、取り組みの推進（個別目標）、重点取り組みの推進について記述しています。詳細は、基本計画第4章（P35-72）を参照してください。

2-5 第2次地球温暖化対策実行計画

地球温暖化に関する現状、計画概要、市内の温室ガス排出量の現状及び将来予測、地球温暖化対策のための取り組みについて記述しています。詳細は、基本計画第5章（P73-108）を参照してください。

2-6 計画の推進体制と進行管理

推進体制、進行管理、その他の計画推進方法について記述しています。詳細は、基本計画第6章（P109-117）を参照してください。

3 安曇野市環境行動計画（2023-2027）について

基本計画で定めた54の重点取り組みのうち、目標を数値で把握できるものを中心に29のプログラムを抽出し、その目標達成のための具体的な進行管理の方法を示した行政計画の一つです。2023年度から2027年度を計画期間とする行動計画を2023年3月に策定しました。今後、社会情勢の変化等により、随時見直しを行います。

行動計画で選定した取り組みの実施状況は、本書6ページ以降に掲載しています。

4 安曇野市環境基本計画実施計画書について

行動計画で選定した取り組みをプログラム化し、一年間に実施する内容を具体的に示した計画書です。進行管理シートにより目標や結果、課題を管理し、見出された改善点を翌年の計画に反映します。

5 2023（令和5）年度の取り組み

本年度の取り組みを条例に基づくもの、行動計画に基づくもの、基本計画の基本目標の一つである「参加と協働」に基づくものに区分し、順次記述します。

5-1 安曇野市環境審議会

[環境審議会](#)を以下のとおり開催し、環境の保全及び創造に関する事項について審議しました。

期 日	回 数	内 容
2023（令和5）年 4月21日	第1回	(1)令和5年度 環境課の業務概要について (2)環境基本計画 令和5年度 実施計画書について (3)太陽光発電設備の設置等に関する条例について (4)令和5年度安曇野市一般廃棄物処理実施計画について
7月19日	第2回	(1)環境基本計画 令和4年度 年次報告書について (2)太陽光発電設備の設置等に関する条例の施行に伴う住民説明会の開催状況と条例施行規則の内容について (3)安曇野市公害防止条例の改正について (4)市長への提言について
11月17日	第3回	(1)令和5年度環境課の事業中間報告について (2)安曇野市版レッドデータブック改訂について (3)第4回安曇野市生きもの調査について (4)安曇野市公害防止条例の改正について
1月18日	第4回	(1)令和5年度環境基本計画中間報告について (2)アカモズの保全について (3)安曇野市版レッドデータブック改訂について
3月15日	第5回	(1)市の組織改編について (2)環境基本計画 令和6年度 実施計画について (3)令和5年度環境課の事業報告について (4)環境基本計画 令和5年度 年次報告（中間）について

5-2 環境基本計画の推進

基本計画における基本目標4、個別目標15、主要施策46項目に基づく各種施策を展開しました。

5-2-1 重点取り組み

基本計画に定めた施策のうち、個別目標1から15にかかる54の重点取り組みについて、行動計画に選定したものを含め、各担当において取り組みを進めました。

5-3 環境行動計画の推進

基本計画に定めた54の重点取り組みのうち、環境指標に絡み、数値目標を定めて特に厳密に進行管理を行うべきものとして抽出した29のプログラムについての取り組み状況を次に示します。

○環境行動計画における重点取り組み一覧

種別	No.	重点取り組み	担当課・係
環境基本計画事業	1	シンボル種(オオルリシジミなど地域の生態系を代表する種)やレッドリスト種などの保護活動を推進する。	環境課 環境政策担当
	2	外来生物の分布状況を把握し、その悪影響に関する普及啓発を実施する。	環境課 環境保全係
	3	悪臭防止法に基づく臭気指数規制の適切な運用を図る。	環境課 環境保全係
	4	広報などで分別の徹底を啓発する。	環境課 資源循環推進担当
	5	事業者に対しごみの分別、減量化、資源化を指導する。	環境課 資源循環推進担当
	6	ごみの分別方法を分かりやすく説明する。	環境課 資源循環推進担当
	7	安曇野市地球温暖化防止実行計画に基づき、省エネルギーに配慮した行動を行う。	環境課 環境政策担当
	8	地球温暖化防止の取り組みの「見える化」を促進する。	環境課 環境政策担当
	9	公共施設を建設する際に省エネ機器・設備を率先導入する。	財産管理課 施設経営担当
	10	緑のカーテンの導入を推進する。	環境課 環境政策担当
	11	住宅等建物への太陽光発電(PPA 事業を含む)の取り組みを進める。	環境課 環境政策担当
	12	自動車の使用を極力削減し、自転車・徒歩でのライフスタイルへの転換に向けた普及啓発を推進する。	環境課 環境政策担当
	13	小中学校における環境教育を推進する。	環境課 環境政策担当
	14	地域活動(隣組・区・地区・地域公民館・自治会組織など)の場などで環境学習会を開催し、出張啓発を行う。	環境課 環境政策担当

種別	No.	重点取り組み	担当課・係
各分野における基本計画	15	薪の地産地消率向上を推進する。	耕地林務課 林務担当
	16	里山で生産される間伐材など「安曇野材」を活用できる生産・流通の仕組みづくりを行う。	耕地林務課 林務担当
	17	里山で活動するための技術・知識を身につけるための「さとぶろ。学校」の年間を通じた講座運営をする。	耕地林務課 林務担当
	18	松枯れ対策事業を継続して行う。	耕地林務課 林務担当
	19	農地を計画的に保全し、農業生産と田園景観の基盤を守る。	農政課 農村振興担当
	20	荒廃農地対策を行う。	農政課 農村振興担当/農業委員会
	21	県知事認定の「エコファーマー」制度の推進に協力する。	農政課 生産振興担当
	22	鳥獣被害防止計画を策定(見直し)し、実施する。	耕地林務課 林務担当
	23	多面的機能支払交付金事業の運用・啓発を図る。	耕地林務課 耕地担当
	24	緑の恵みを感じることができる講座を開催する。	都市計画課 公園緑地担当
	25	景観条例や屋外広告物条例の運用・啓発を行う。	建築住宅課 建築景観係
	26	地下水涵養に資する手法等の調査・研究・試行を実施する。	環境課 環境政策担当
	27	雨水貯留施設の設置に対する補助を行う。	環境課 環境政策担当
	28	管理不十分な空家などへの指導をする。	移住定住推進課 空家活用係
29	デマンド交通「あづみん」、「定時定路線」の運行を行う。	政策経営課 企画担当	

【環境基本計画事業】		環境基本計画 重点取り組み PDCAシート		No. 1 シンボル種(オオルリジミなど地域の生態系を代表する種)やレッドリスト種・天然記念物などの保護活動を推進する。	
担当：環境課 環境政策担当					
1. Plan(計画)					
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期	具体的な実施内容	
[評価区分]	目標(数値目標)			[評価区分]	[結果/目標](%)
①	自然観察会の開催 年4回 延べ参加者100人以上	・第4回生きもの調査と関連させて自然観察会を開催	4月22日 5月27日 7月、9月	①	126 126.0%
[定量-2]				[定量-2]	
②	生物多様性アドバイザー連絡会議の開催 年6回以上	・自然保護事例の情報共有および対応結果の検討 ・安曇野市版レッドデータブック改訂に関わる事務 ・生きもの調査に関わる意見	5月、 その他5回	②	6 100.0%
[定量-1]				[定量-1]	
③	安曇野オオルリジミ保護対策会議への参加 年1回以上	・オオルリジミ野外科察会支援 ・会議への出席	5月 3月	③	1 100.0%
[定量-1]				[定量-1]	
※定量+実施した→A 実施しない→E 計画どおり→B 計画どおりが半分以上→C 定量+実施回数/目標回数×100 50~100→A 60~80→B 30~50→C 10~20→D 0~10→E 定数/定数×100→A 50以上→C 30~49→B 10~29→D 0~29→E					
2. Do(実行)					
目標	実施結果(数値)				期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)				
①	126				4/22・ 5/27・ 7/29・ 9/30
[定量-2]	126.0%				
②	6				5/23・8/24・ 10/16・ 12/18・2/9・ 3/11
[定量-1]	100.0%				
③	1				
[定量-1]	100.0%				3/9
3. Check(点検・評価)					
目標	達成状況	審議会 の評価	成果 課題		
[評価区分]					
①	A	A	アンケート結果から、「よく分かった」「だいたい分かった」が4回とも85~95%と高い値であった。 未就学~小学校低学年が多いため、時期・会場・時間等のプログラムを検討し、より安全に配慮する必要がある。(水の事故、熱中症、危険な場所の把握など)	アンケート結果から、「よく分かった」「だいたい分かった」が4回とも85~95%と高い値であった。 未就学~小学校低学年が多いため、時期・会場・時間等のプログラムを検討し、より安全に配慮する必要がある。(水の事故、熱中症、危険な場所の把握など)	
[定量-2]					
②	A	A	年末までにレッドリストの内容確認が完了する見込み。 レッドデータブック改訂を機に、生物多様性アドバイザー制度の周知を行い、市民や事業者に対して、より一層の希少種の保護の必要性を訴える必要がある。	年末までにレッドリストの内容確認が完了する見込み。 レッドデータブック改訂を機に、生物多様性アドバイザー制度の周知を行い、市民や事業者に対して、より一層の希少種の保護の必要性を訴える必要がある。	
[定量-1]					
③	A	A	5月の観察会等への協力はできていない。環境フェアにてオオルリジミのワークショップがあり、文化課と協力して啓発活動を行うことが出来た。 オオルリジミ保護対策会議及び関係機関と、より協力して保護施策を進められるとよい。	5月の観察会等への協力はできていない。環境フェアにてオオルリジミのワークショップがあり、文化課と協力して啓発活動を行うことが出来た。 オオルリジミ保護対策会議及び関係機関と、より協力して保護施策を進められるとよい。	
[定量-1]					
13. 情報の充実					
広報あつみの ・市ホームページ ・安曇野エコプラン.net ・安曇野市版レッドデータブック		14. 学ぶ・体験する		15. 関連組織	
・自然観察会				・安曇野市生物多様性アドバイザー ・安曇野オオルリジミ保護対策会議	

【環境基本計画事業】

環境基本計画 重点取り組み PDCAシート

担当：環境課 環境政策担当・環境保全係

No.2 外来生物の分布状況を把握し、その悪影響に関する普及啓発を実施する。

1. Plan (計画)

目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	特定外来生物リポーターの募集・情報提供依頼 新規登録者 5 人	市広報紙、公式ホームページのほか、自然観察会等の機会を利用した募集案内	6/11 (通年)
[定量-2]			
②	駆除啓発に関する広報の実施 情報提供件数 50 件	・市広報紙などによる駆除啓発 ・特定外来生物リポーター通信の発行	5/24 5月 12月
[定量-2]			
③	市内道路などにおける駆除活動 駆除作業の実施	関係課のほか、安曇野建設事務所、土地改良区等と連携して駆除活動を実施	5月
[定量-1]			

4. Action (改善)

目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など
[評価区分]		
①	無	・市広報紙、ホームページ等で特定外来生物リポーターの募集と情報提供依頼を継続して実施していく。
[定量-2]		
②	無	・市広報紙、ホームページ等で特定外来生物に関する情報発信を行い、市への生育状況報告へとつなげていく。
[定量-2]		
③	無	・次年度以降も、関係団体、関係課等と特定外来生物の駆除活動を行う。
[定量-1]		

環境審議会意見
 ・次年度からはリポーターの登録者を増やしてほしい。
 ・広報や情報提供の在り方を再検討してほしい。マンネリ化もあるため、やり方も再検討してもらいたい。

2. Do (実行)

目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	0人 0%	・各区を対象としたアレチウリ等一斉駆除事前研修会の場等を活用し、リポーター募集や外来生物に係る情報提供を依頼した。	6/11
[定量-2]			
②	38件 76%	・市広報紙などによる駆除啓発を行った。	5月
[定量-2]			
③	実施 100%	・安曇野わさび田湧水群憩いの池でオオカワ子シヤ等の駆除活動(2回)を行った。	7月 9月
[定量-1]			

※定量+実施した→A 実施しない→E 計画しなかった→C
 定量+実施結果/目標数値×100 80→100→A 60→80→B 30→50→C 10→20→D 0→0→E
 実施結果かつ→A かつ→Bかつ→C かつ→Dかつ→E

3. Check (点検・評価)

目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分]			
①	E	E	一定数の特定外来生物生育状況報告が市にあがってくる。 特定外来生物リポーターの応募に伸び悩みが見られる。
[定量-2]			
②	B	B	一定数の特定外来生物生育状況報告が市にあがってくる。 特定外来生物生育状況報告を市に市民の裾野を広げる必要がある。
[定量-2]			
③	A	A	池に繁茂したオオカワ子シヤを駆除することができた。 駆除活動に参加する市民を増やしていく必要がある。
[定量-1]			

13. 情報の充実

14. 学ぶ・体験する

15. 関連組織

・市ホームページ

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境保係			
1. Plan (計画)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	臭気指数規制対象事業場への改善対策指導 臭気指数基準超過事業場 0 事業場	臭気低減対策の進捗確認と臭気指数規制に基づく規制基準超過事業者ゼロにする。	通年
[定量-1]			
②	臭気モニター等による監視 1回/週	臭気状況把握のための巡回・監視及びモニターリング結果の活用(事業場への提供)。	通年
[定量-2]			
③	広報等による規制の周知 年1回以上	市民、事業場に向け「臭気指数規制」を周知する。	通年
[定量-2]			
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	有	関係課と連携して事業場の状況を確認、改善を促していく。次年度、においの専門家を招聘するための予算を計上したいと考えている。	
[定量-1]			
②	無	臭気モニター等の確認・巡回により悪臭発生状況(位置や強度)を確認できるため、苦情等により職員が確認した場所とあわせて該当箇所を事業場に伝え、改善を促していく。	
[定量-2]			
③	無	寄せられた苦情内容から傾向等を把握し、必要に応じて商工会・工業会・農業団体等を通じて事業場に規制内容や事例などを周知するなどし、良好な生活環境の保全に取り組んでいく。	
[定量-2]			
環境審議会 意見		・丁寧、迅速に対応を継続してもらいたい。堆肥センター閉鎖後の個別対応も重要だと思う。	

No. 3 悪臭防止法に基づく臭気指数規制の適切な運用を図る。			
2. Do (実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	2事業場 0%	悪臭防止法に基づく臭気指数規制対策事業者に対して改善を促すとともに、夏場に臭気指数測定調査を6事業場に対して実施した。結果、2事業場で超過。超過事業者に対して行った、2月の追加測定では基準値内となった。	7~9月 2月
[定量-1]			
②	76回 ※回数数は公害監視員によるもの	臭気モニター等から提出された報告書により、臭気発生状況、発生事業場(原因)を把握し、該当事業場に情報共有している。事業者には、この内容を確認し臭気改善に取り組んでもらっている。※回数は、公害監視員によるもの(R6.1月末)	通年
[定量-2]	146%		
③		市民・事業者向けに広報紙に掲載予定。また、苦情の内容・地域に届りがあるため、関係部署とともに当該地域での経過紹介や悪臭防止啓発のためのチラシを作成、配布予定。	3~4月
[定量-2]			
<small>※定量-1:達成した%A、実施しなかった%E 計画しなかった%A</small> <small>※定量-2:達成率(目標値×100) 90~100%⇒A 80~99%⇒B 70~99%⇒C 60~79%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A 多少あった⇒B</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分]			
①	E	E	臭気指数超過事業場に対し、臭気測定値を示し改善を促した。 事業者の経営状況・判断にも影響されるなど、悪臭の解消には課題がある。
[定量-1]			
②	A	A	臭気モニター等が確認・巡回することで、発生状況(位置や強度)の確認ができ、詳細な指摘が可能になった。
[定量-2]			
③			臭気指数規制導入後、市民・事業者に対し、制度について周知を行った。
[定量-2]			
13. 情報の充実		14. 学ぶ・体験する	
・広報紙あつみの ・市ホームページ		15. 関連組織	

【環境基本計画事業】			No. 4 広報などごみ分別の徹底を啓発する。		
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート					
担当：環境課 資源循環推進担当					
1. Plan (計画)					
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期	実施結果(数値)	具体的な実施内容
[評価区分]	目標(数値目標)			[結果/目標](%)	
①	広報紙、ホームページ等で分別の徹底、食品ロス削減等、ごみ減量化について啓発する	・ごみ減量化には欠かせない食品ロスの削減に向けて、広報紙、ホームページ、分別アプリ等でごみ処理の状況を公表し、減量化や資源化につなげる。	通年		広報紙で食品ロスの削減について啓発記事を掲載した。その他、ホームページや分別アプリで分別方法を案内し資源化を推進した。
[度量-2]	広報紙、HP、分別アプリの活用	・事業所からの申請が増えるよう事業所も補助金の交付対象であることを周知する。		実施	
②	家庭用生ごみ処理機、コンポスター等の導入の推進	・購入補助金の交付 補助金は生ごみ処理機は購入額の2分の1、土壌菌1基につき5万円。生ごみ処理器は購入額の3分の2、土壌菌1基につき3万円	通年	198件	交付確定件数及び交付金額 ・処理機 111件 2,741,500円 ・処理容器 71件 187,400円 ・粉砕機 16件 160,000円 合計 198件 3,088,900円
[度量-1]	交付確定件数100件/年			198%	
③					
※度量-1実施した→A 実施しない→E 計画しなが中出し→C 度量-2実施回数/目標回数×100 80~100→A 60~79→B 30~59→C 10~29→D 0~9→E 実施回数/計画回数×100 80~100→A 60~79→B 30~59→C 10~29→D 0~9→E					
2. Do (実行)					
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	実施結果(数値)	具体的な実施内容	実施結果(数値)
[評価区分]	目標(数値目標)		[結果/目標](%)		
①					
[度量-2]					
②					
[度量-1]					
③					
3. Check (点検・評価)					
目標	達成状況	審議会の評価	成果	達成状況	審議会の評価
[評価区分]					
①	A	A	広報紙やホームページでの啓発・周知を行うことができた。	A	A
[度量-2]					
②	A	A	生ごみ処理機等への補助金交付確定件数は目標件数を上回った。	A	A
[度量-1]					
③					
4. Action (改善)					
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	変更の必要性
[評価区分]					
①	無	引き続き、広報紙、ホームページ、分別アプリ、LINE等を活用し、ごみ減量化に必須となる食品ロスの削減に向けた啓発を行う。			
[度量-2]					
②	無	生ごみ処理機の補助金は、事業所への設置も交付対象であることを広報し、来年度は事業所からの申し込みも増えるようにしたい。			
[度量-1]					
③					
環境審議会 意見					
		引き続き、啓発・周知のポイントについて確認を続けていきたい。事業所については生ごみ処理の状況と補助金の有効性を確認してほしい。			
		食品ロスについて、松本市は30・10運動を行っている。安曇野市でもスローガンを作って啓発してほしい。			
		事業での周知・啓発以外の具体的な活動として、家庭のごみ箱に貼る分別シールを作って配布してほしい。可燃ごみやプラスチック等、ごみの量が多いものに絞ってシールをつくることを検討していただきたい。			
		広報活動の事例のなかに加えたい。事業者に対しては、事業者での実態を把握して進めてほしい。			
13. 情報の充実			14. 学ぶ・体験する		
・広報あづみの ・市ホームページ ・資源物・ごみ分別促進アプリ			15. 関連組織		

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 資源循環推進担当			
No. 5 事業者に対しごみの分別、減量化、資源化を指導する。			
2. Do (実行)			
目標	実施内容	実施結果(数値)	具体的な実施内容
[評価区分]	目標(数値目標)	[結果/目標](%)	期日等
①	事業系一般廃棄物の減量・資源化 R4年度比288tの減	396.52t 137%	・事業系ごみ減量化・適正処理の手引きにより、ごみの資源化や廃棄物の適正処理を案内した。 ・福高広域施設組合への事業系ごみ搬入量(構成市町村合計)は、2月29日現在昨年度比396t減少。
[定量-2]			通年
②	収集運搬許可業者等との会議を開催		・収集運搬業者との会議は3月15日(金)に実施。
[定量-1]			3月
③			
[定量-1]			
※定量+業種別→A 業種別が中出し→C 定量+業種別/目標達成率×100→A 80~100→A 60~79→B 30~59→C 10~29→D 0~9→E 定率達成率→A 50%以上→C 30%以上→D 20%以上→E			
3. Check (点検・評価)			
目標	変更の必要性	達成状況	審議会 の評価
[評価区分]	結果の検証と次年度への展望など		成果 課題
①	引き続き、事業者に対してリサイクルセンターの活用、生ごみ処理機器等補助金の利用等、ごみ減量化へ繋がる施策の周知を行う。	A	A
[定量-2]			昨年度と比較し、事業系ごみの排出量が減少した。 引き続き事業者への啓発を行う。
②	収集運搬業務における現状の問題点や課題等を共有し、解決に向けた取り組みを行う。	-	-
[定量-1]			なし
③			なし
[定量-1]			
13. 情報の充実			
・広報あづみの ・市ホームページ		14. 学ぶ・体験する	
		15. 関連組織	
		・安曇野市商工会	
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	達成状況	審議会 の評価
[評価区分]	結果の検証と次年度への展望など		成果 課題
①	引き続き、事業者に対してリサイクルセンターの活用、生ごみ処理機器等補助金の利用等、ごみ減量化へ繋がる施策の周知を行う。	A	A
[定量-2]			昨年度と比較し、事業系ごみの排出量が減少した。 引き続き事業者への啓発を行う。
②	収集運搬業務における現状の問題点や課題等を共有し、解決に向けた取り組みを行う。	-	-
[定量-1]			なし
③			なし
[定量-1]			
環境審議会 意見			
・事業系ごみの減量のポイントについて今後の活動に生かして行ってほしい。 ・収集運搬許可業者等との会議については、6月に問題点と課題を共有し解決に向けた取り組みを行い、3月に取り組み結果をまとめて次年度に繋げるようにしてほしい。 ・資源化を指導した結果どうなったのかを明らかにするのが目的であり、会議の開催自体が目的にならないようにしてほしい。 ・事業者への周知・啓発を増やしてほしい。			

【環境基本計画事業】		No. 6	
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート		ごみの分別方法を分かりやすく説明する。	
担当：環境課 資源循環推進担当			
1. Plan (計画)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	ごみ分別促進アプリの普及促進と情報の配信	ごみ分別促進アプリの利用者数を把握し、情報の更新と発信を行う。	通年
[定量-2]	利用者数3,400件/年		
②	環境フェア等における展示や出前講座等の開催、小学生に対する環境学習会の実施	環境フェアにおける展示や出前講座において、リデュース・リユース・リサイクルの3Rについて周知を図る。 市内小中4年生が行う環境学習センターの施設見学に合わせて、ごみの減量化について説明を行う。	10月 通年
[定量-2]	年1回以上の開催		
③			
※定率-1:実施した%A 実施しない%E 計画しなかった%A=C 定率-2:達成率/目標数×100% 90~100%⇒A 80~90%⇒B 70~80%⇒C 60~70%⇒D 0~60%⇒E 定率-3:達成率/A 50%以上⇒A 50%未満⇒B 悪かった⇒E			
2. Do (実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	4088件	ごみ・資源物収集カレンダーの令和5年度版への差し替え、データの維持管理を行った。	通年
[定量-2]	120%		
②	9件	環境フェアではごみ減量化推進を啓発する展示を行った。 市内小中学校9校の4年生が行った「環境学習センター」の施設見学に合わせて、ごみを減らすための工夫について説明した。	10月 通年
[定量-2]	900%		
③			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果
[評価区分]			課題
①	A	A	資源物・ごみ分別促進アプリの利用や数は年々増えてきている。 イベント等でごみ分別促進アプリを周知し、利用者を増やす。
[定量-2]			
②	A	A	なし
[定量-2]			
③			
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	アプリ登録の周知を行い、利用者数の増と情報発信を行う。	
[定量-2]			
②	無	環境フェアでの展示や、環境学習会は引き続き開催に向けた準備を進める。	
[定量-2]			
③			
環境審議会 意見		引き続きごみの減量化に向けた行動変容を確認しその対応を進めていただきたい。 よく間違える分別方法を中心に周知してほしい。 今は、硬質プラスチックを燃えるゴミ袋に入れている。硬質プラスチックを年に2回程収集する日を設けてほしい。	
13. 情報の充実		14. 学ぶ・体験する	15. 関連組織
ごみ分別促進アプリ			

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
No. 7 安曇野市地球温暖化防止実行計画に基づき、省エネルギーに配慮した行動を行う。			
2. Do (実行)			
目標	実施内容	実施結果(数値)	具体的な実施内容
[評価区分]	目標(数値目標)	[結果/目標](%)	期日等
①	公的施設における再生可能エネルギー設備設置 30施設	公的施設における再生可能エネルギー設備設置数 28	・太陽光パネル設置現地調査(6施設)
[定量-1]			12月
②	市の事務事業における温室効果ガス削減 温室効果ガス削減率44%(2013年度比)	実施済 温室効果ガス削減率 36%(2013年度比)	・温室効果ガス排出量の集計、把握 ・インフォメーションにて、職員に排出量の周知、啓発
[定量-1]			8月 9月
③			
[定量-1]			
※ 定量+実施した⇒A 実施しない⇒E 計画しなかった⇒C 定量+実施結果/目標達成率×100 80~100⇒A 60~79⇒B 30~79⇒C 10~29⇒D 0~9⇒E 定率 達成率⇒A 50%以上⇒C 50%未満⇒E			
3. Check (点検・評価)			
目標	変更の必要性	達成状況	審議会の評価
[評価区分]	結果の検証と次年度への展望など		成果 課題
①	無	A	A
[定量-1]	地域脱炭素移行・再生可能エネルギー推進交付金事業で取り組みを加速する。		関係部署と連携し、設置予定施設に対し、調査に向けた説明を行った。 設計の古い既存施設の構造把握
②	有	B	B
[定量-1]	公的施設における再生可能エネルギー設備設置を進め、温室効果ガス削減率を増加させる。職員への周知、啓発を継続する。		温室効果ガス排出量の集計し、職員に排出量の周知、啓発をした 温室効果ガス削減率の増加、省エネ行動に加え、ゼロカーボンへの意識の向上
③			
[定量-1]			
13. 情報の充実			
市ホームページ		14. 学ぶ・体験する	
環境審議会意見		15. 関連組織	
環境審議会意見		エコアクション21中央事務局・地域事務局	

【環境基本計画事業】		No. 8 地球温暖化防止の取り組みの「見える化」を促進する。	
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
1. Plan (計画)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	環境家計簿の運営・結果の公表 回収数 80世帯	・半年ごとの記録票の収集 ・結果のまとめ及び広報紙、市ホームページへの掲載、モニターへのお知らせ	7月・翌1月
[定量-2]			
②	環境家計簿実施世帯の平均二酸化炭素排出量削減 (目標削減量 139.0 kg-CO2)	・記録票の収集、排出量の把握 ・目標削減量、排出量削減のための具体的な取り組みの周知	7月・翌1月
[定量-2]			
③	ゼロカーボンを実現するためのイベントの企画・運営 環境フェアの開催	・環境フェアでゼロカーボンについて取り上げ、市民の意識を高める	10月
[定量-1]			
2. Do (実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	実施済 回収数 69世帯	・半年ごとの記録票の収集 ・結果のまとめ及び広報紙、市ホームページへの掲載、モニターへのお知らせ	7月・翌1~3月
[定量-2]			
②	実施済 5.1%の減	・記録票の収集、排出量の把握 ・目標削減量、排出量削減のための具体的な取り組みの周知	7月・翌1~3月
[定量-2]			
③	実施済 -	展示・体験ブース出展、リサイクル自転車の販売等の環境関連イベント テーマ「ゼロカーボン 未来につなごう、安曇野の自然」	10月
[定量-1]			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分]			
①	B	B	回収数69人(前年度 63人) 回収数の増加、こどもへの啓発
[定量-2]			
②	A	A	5.1%(351.1kg-CO2)の減 排出量削減、具体的な取組みの周知
[定量-2]			
③	A	A	参加者数 約1,800人(前年度 約1,400人) 出展者数 54団体(前年度 43団体) 来場者増加、内容の充実
[定量-1]			
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	有	環境家計簿報告者の固定化がみられる。現在の環境家計簿は大人用に作成したものであるため、こども版環境家計簿等、こどもが参加できるものを取り入れる。	
[定量-2]			
②	有	参加者が実際家庭でどのくらい二酸化炭素を排出しているのか、目標値までどのくらい削減が必要なのかを実感できる結果報告書にする必要がある。	
[定量-2]			
③	有	フェアの内容を充実させ、関心や来場者の増加を図る。来場者・参加者が、取り組みや心がけをより深く考える場とする。取り組んでみたいと思う具体的な提案が必要である。	
[定量-1]			
環境審議会意見		・地域脱炭素移行・再エネ推進交付金の活用による「見える化」を進めてほしい。環境家計簿については、こどもから家庭の気づきにつながるものにしてほしい。 ・環境フェアについて、もう少し突っ込んだことができるといい。 ・環境フェアや環境家計簿から、次第にゼロカーボンに向けた見える化をしていただきたい。	
13. 情報の充実		14. 学ぶ・体験する	15. 関連組織
広報あづみの市ホームページ	環境家計簿	長野県産業環境保全協会 安曇野工業会 安曇野地球温暖化協議会など	

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：財産管理課 施設経営担当			
No. 9		公共施設を建設する際に省エネ機器・設備を率先導入する。	
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的内容	予定時期
[評価区分]	実施結果(数値) [結果/目標](%)		
① [度量-2]	省エネ機器・設備の導入 節電、節水の向上(100%)	新築・改修物件でLED機器(人感センサー付き)、節水機器、冷暖房省エネ機器の導入	通年
② [度量-2]	冷暖房負荷低減建材の導入 断熱性能の向上(新築100%)	高断熱性能建材等の導入で熱負荷の低減	通年
③ [度量-1]	自然エネルギー設備の導入 環境負荷の低減(新築100%)	太陽光・地中熱等設備の導入で環境負荷の低減	通年
※度量1:実施した%A 実施しない%E 計画しが中出し=C 度量2:実施結果/目標数値×100 80~100%A 60~79%B 30~59%C 10~29%D 0~9%E 評価区分: A B C D E			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分]			
① [度量-2]	A	A	利用状況に応じたLED照明器具、節水機器、冷暖房省エネ機器を採用した。 特に無し。
② [度量-2]	A	A	新築案件だけでなく、改築でも断熱性能の高い建材等を採用した。 特に無し。
③ [度量-1]	A	A	新築案件について、太陽光設備を採用した。 特に無し。
13. 情報の充実			
しゅん工パンフレット作成支援		14. 学ぶ・体験する	
環境審議会意見		15. 関連組織	
・取り組みで得られた要素の活用を進めてもらいたい。水平展開を進めていただきたい。		施設学受入支援	
		—	
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
① [度量-2]	無	設備投資費と節電節水のバランスを意識し、使用状況に応じた器具を選定する。	
② [度量-2]	無	設備投資費と熱負荷軽減のバランスを意識し、断熱性能の高い建材等を選定する。	
③ [度量-1]	無	設備投資費、維持管理費のバランスを意識しつつ、自然エネルギーを活用する設備を選定する。	

【環境基本計画事業】		No. 10 緑のカーテンの導入を推進する。	
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
1. Plan(計画)			
目標	実施内容	具体的内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	緑のカーテン講座の実施	地球温暖化及び緑のカーテンに関する講座の開催	5月
[定量-1]	年1回		
②	市施設における緑のカーテンの実施	苗の配布による取組推進 市施設担当者向けの緑のカーテン講座の開催	通年・5月
[定量-2]	40施設(前年度値)		
③	緑のカーテン写真展の実施	環境フェアでの緑のカーテン写真展の開催	10月
[定量-1]	年1回		
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	広報紙、ホームページ等を広く活用し、効果と講座開催を周知していく。4月末に開催する緑のカーテン講座(共催)でも周知をする。また、講座内での「地球温暖化」に関する講座も引き続き行う。	
[定量-1]			
②	有	市民への啓蒙という意味も含め、市民利用が多い、窓が大きい、施設を優先して動員していく。本庁舎での設置可能性の有無を検証する。市施設担当者向けに育て方やコツについて、周知する。配布するネットや苗は、より緑のカーテンが育ちやすくなる、適したものを選ぶ。	
[定量-2]			
③	有	上記(①②)により、参加者・実施施設増とあわせ、応募者増を目指す。 人の目に止まるように展示の仕方を工夫する。	
[定量-1]			
環境審議会意見		・緑のカーテンの定着を確認しさらなる計画を進めてほしい。 ・市民には緑のカーテンは定着してきている。市有施設にも緑のカーテンを設置しているもの、うまく育てておらず寂しい見ただけである。意欲をもって育ててほしい。	
2. Do(実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	実施済	「地球温暖化」～安曇野も例外ではありません (環境課職員) 緑のカーテン(ゴーヤ)の作り方	5月
[定量-1]	-		
②	32施設	市内インフォメーション及び苗配布により勸奨 育て方資料の配布 市施設担当者向けの緑のカーテン講座の開催	4～6月
[定量-2]	80%		
③	実施済	広報紙、ホームページへの掲載、チラシ配布による 募集 環境フェアのほか、本庁舎にて開催	10月 1月
[定量-1]	-		
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果課題
[評価区分]			
①	A	A	参加者45人(前年度比+4) (予約者は定員50人に達した) 参加者増
[定量-1]			
②	B	B	実施32施設(前年度比-8) 実施施設増
[定量-2]			
③	A	A	応募11件(前年度と同じ) 応募者増
[定量-1]			
13. 情報の充実			14. 学ぶ・体験する 15. 関連組織
広報あづみのホームページ 安曇野エコプラン.net		緑のカーテン講座 安曇野環境フェア	あづみ野風土舎

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
No. 11		住宅等建物への太陽光発電(PPA事業を含む)の取り組みを進める。	
2. Do(実行)			
目標	実施内容	実施結果(数値)	具体的な実施内容
[評価区分]	目標(数値目標)	[結果/目標](%)	
①	太陽光発電システム設置への補助	192件	広報、ホームページにて市民へ、案内の郵送にて業者へ周知を行った。10/13以降、補助金交付額が当初予算額に達したため申請受付を一時停止。12/25から申請受付を再開。
[定量-2]	補助金交付200件	96%	
②	定置型蓄電システム設置への補助	117件	広報、ホームページにて市民へ、案内の郵送にて業者へ周知を行った。10/13以降、補助金交付額が当初予算額に達したため申請受付を一時停止。12/25から申請受付を再開。
[定量-1]	補助金交付20件	585%	
③	グローバルパワーチャージ(共同購入)・既存住宅エネルギー自立化補助金(尾野場)への協力	実施済	市の地球温暖化対策設備設置補助金のホームページに、県のグローバルパワーチャージ(共同購入)・既存住宅エネルギー自立化補助金、信州省エネ家電購入応援キャンペーンについて掲載。
[定量-1]	広報等での協力	-	
<small>※定量-1:実施した件数、実施しない件数 E 計画達成率(%) ※定量-2:実施数/目標数×100 E 90~100% A 80~89% B 70~79% C 60~69% D 50~59% E ※定性:良かった A ぶつた B C 悪かった D E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果
[評価区分]			課題
①	A	A	補助金交付192件
[定量-2]			自然エネルギーの導入促進、申請受付件数の拡大
②	A	A	補助金交付117件
[定量-1]			自然エネルギーの導入促進、申請受付件数の拡大
③	A	A	広報誌、ホームページでの周知
[定量-1]			県の補助金を周知することにより、一層の自然エネルギー導入の促進が見込む。
13. 情報の充実		14. 学ぶ・体験する	
環境審議会意見		環境フェア	
広報あづみの市ホームページ		15. 関連組織	
		-	
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	有	市民から補助のニーズが高く、申請件数が増えてきている。申請受付可能件数を拡大させる必要がある。	
[定量-2]			
②	有	市民から補助のニーズが高く、申請件数が増えてきている。申請受付可能件数を拡大させる必要がある。	
[定量-1]			
③	無	市と県の補助金は併用が可能であるため、条件によっては補助額が増加する。補助金の周知を行い、さらなる自然エネルギーの導入を促進する。	
[定量-1]			

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
No. 12 自動車の使用を極力削減し、自転車・徒歩でのライフスタイルへの転換に向けた普及啓発を推進する。			
2. Do(実行)			
目標	実施内容	実施結果(数値)	具体的実施内容
[評価区分]	目標(数値目標)	[結果/目標](%)	
①	自動車使用に関する調査 各種団体・事業者などと連携	実施	・松本ゼロカーボン・コンソーシアムモビリティ部会で安曇野市役所公用車のEV化について検証。
[定性]			
②	公用車使用の見直し 公用車使用率 前年度比2%削減	308,771km 5.2%増加	・安曇野市役所の公用車(共用車両41台)の使用距離について昨年度と比較する。
[定量-2]			
③			
[定量-1]			
※定量-1:実施した⇒A 実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C 定量-2:実施数値/目標数値×100⇒90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A 良かった⇒C 悪かった⇒E			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	審議会の評価	成果
[評価区分]			課題
①	A	A	いろいろな立場の方と意見交換ができた。 自動車の利用を制限することは画期的な試みをしなければ、非常に難しいと感じる。
[定性]			
②	A	A	新型コロナウイルス感染拡大時との自動車使用状況の比較分析が出来た。 公用車の使用距離削減だけでなく、自転車・徒歩での業務スタイルの構築が必要。
[定量-2]			
③			
[定量-1]			
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	有	自動車の使用距離だけに焦点を当てるのではなく、使用方法・用途、同乗者数などいろいろな観点からの分析が必要。	
[定性]			
②	有	公用車の使用距離だけでなく、他の調査項目の検証が必要。	
[定量-2]			
③			
[定量-1]			
環境審議会意見		13. 情報の充実	14. 学ぶ・体験する
			15. 関連組織 安曇野工業会 安曇野市商工会

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
No. 13		小中学校における環境教育を推進する。	
2. Do(実行)			
目標	実施内容	実施結果(数値)	具体的な実施内容
[評価区分]	目標(数値目標)	[結果/目標](%)	
①	環境学習プログラムの周知 年3回以上	4回 133%	自然観察会開催案内を安曇野市内全小中学校に配布
[定量-2]			
②	出前講座の実施 年2回以上	2回 100%	・豊科南中学校 ・穂高東中学校
[定量-1]			
③			
[定量-1]			
※定量-1:実施した⇒A 未実施が中止した⇒C ※定量-2:実施数/目標数×100= 90~100⇒A 80~89⇒B 30~59⇒C 10~29⇒D 0~29⇒E 定性:良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E			
3. Check(点検・評価)			
目標	変更の必要性	達成状況	審議会の評価
[評価区分]			
①	—	A	A
[定量-2]			
②	有	A	A
[定量-1]			
③			
[定量-1]			
結果の検証と次年度への展望など		成果 課題	
安曇野環境フェアなどもリンクした案内をしたい。		自然観察会への参加希望者が非常に多かった。 自然観察会以外のイベントについての周知方法の検討が必要。	
小学生に分かりやすい出前講座の開催方法などを検討する。		生徒たちが関心を持ち、いろいろな意見を述べていただいた。 小中学校への出前講座の周知	
環境審議会意見		14. 学ぶ・体験する	
・高校でも環境教育の授業を行っているので、重点取り組みのタイトルの変更を検討してもいいのではないか。		15. 関連組織 安曇野市内小中学校 安曇野市内高等学校	

【環境基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
No. 14 地域活動(隣組・区・地区・地域公民館・自治会組織など)の場などで環境学習会を開催し、出張啓発を行う。			
2. Do(実行)			
目標 [評価区分]	実施内容 目標(数値目標)	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容 期日等
① [定量-2]	出前講座の実施 年2回以上	2回 100%	・ 中信地区高等学校図書館協議会 ・ 安曇野市小中学校事務研究会 11/21 1/11
② [定量-1]			
③ [定量-1]			
<small>※定量・実績した→A 未実施しない→E 計画した中出し→C 定量・実績数/目標数×100 90→100⇒A 80→89⇒B 70→79⇒C 60→69⇒D 0→69⇒E 定性・良かった⇒A ぶつた⇒B 悪かった⇒E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標 [評価区分]	達成※ 状況	審議会 の評価	成果 課題
① [定量-2]	A	A	意見交換の時間を設定するなど、意識啓発を図ることができた。 各区・自治会組織などでの出前講座の実施
② [定量-1]			
③ [定量-1]			
4. Action(改善)			
目標 [評価区分]	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会 意見
① [定量-2]	有	いろいろな機会(対象)で、出前講座の開催をし意識の啓発を図ることが必要である。	・区などに積極的に出前講座の開催を宣伝してもいいのではないか。 ・新設されるゼロカーボン推進課など、他部署との調整も必要だと思う。
② [定量-1]			
③ [定量-1]			
13. 情報の充実		14. 学ぶ・体験する	
		15. 関連組織	

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート		No. 15 薪の地産地消費向上を推進する。	
担当： 耕地林務課 林務担当			
2. Do (実行)			
目標	実施内容	実施結果(数値)	具体的な実施内容
[評価区分]	目標(数値目標)	[結果/目標](%)	
①	安曇野産の薪供給体制の整備 推進 体制整備推進のPJ会議等の開催3 回以上	会議=3回 講習会=2回 166%	・里山まきのプロジェクト会議の開催し、薪供給体制及び整備を目的とした交流会、講習会への検討を実施した。 ・薪づくり講習会を開催し、地元材の有効利用と効果的な薪づくり方法など実施。
②	薪ポイラーへの薪供給 薪の提供量 年間300m ³	223.2m ³ 74%	・しゃくなげの場への薪供給 223.2m ³ (2月上旬現在) ・しゃくなげの場施設に松枯れ材を利用して いる ・目安看板を掲示
③			
※定量=1:実施した=A、実施しない=E、計画しなかった=C 定量=2:実施数量/目標数量×100= 90→100=A、80→89=B、30→59=C、10→29=D、0→9=E 定性:長かつ=2=A、ふつぷり=2=C、悪かつ=2=E			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
①	A	プロジェクト会議を開催し、安曇野産薪材の利用や供給体制の構築など検討を進めている。 薪づくり講習会など薪ユーザーのニーズに合わせて継続した講習会を企画、実施していく必要がある。 松枯れ材を薪として生産し、しゃくなげの場にて計画的に供給できている。	
②	B	安定供給するための原木の確保	
③			
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	推進組織等 意見
[評価区分]			
①	無	薪生産フィールドは、獣害や荒廃農地など問題を抱えた山林を対象に体制を構築していく方向に進めている。	(主な推進組織の名称: 里山再生計画推進協議会)
②	有	施設の利用者に対し、地域課題の解消に繋げた取り組みを実施していることについて、周知を高めていく必要がある。	薪ステーションや相談窓口のような市民の目に見える形での拠点の整備が必要。またその拠点の認知度を高め、相談がさどろ。に恒常的に届くようになることを期待する。
③			

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当： 耕地林務課 林務担当			
No. 16 里山で生産される間伐材など「安曇野材」を活用できる生産・流通の仕組みづくりを行う。			
2. Do(実行)			
目標	実施内容	具体的内容	実施結果(数値)
[評価区分]	目標(数値目標)	具体的内容	[結果/目標](%)
①	里山木材活用プロジェクト会議等の開催 年5回開催	・木材供給調整 ・安曇野材活用研究会開催 ・安曇野材の情報提供	9回 180%
[定量-2]			
②	あつみの里山市の開催 参加者数300人(コロナ禍200人)	・安曇野材の展示・販売 ・安曇野材のPR ・新型コロナウイルス感染症防止対策をとり実施	91組、188名 63%
[定量-2]			
③			
[定量-2]			
※定量-1:実施した回、達成しない回 E 計画した回中E以上=C 定量-2:実施回数/目標回数×100= 90~100%=A 80~89%=B 30~59%=C 10~29%=D 0~9%=E 定性:良かった=A 良かった=C 悪かった=E			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
①	A	安曇野材を活用できる生産・流通の仕組みづくり「情報の見える化システム」を試行した。	安曇野材を活用できる生産・流通の仕組みづくり「情報の見える化システム」を試行した。 現在試行段階であるが、それぞれの立場で必要な情報が得られているのか確認しながら、必要に応じて改善を図っていく。
[定量-2]			
②	B	あつみの里山市は安曇野材に触れられるイベントとして定着してきており、今後も継続的に開催していく。	会場の広さや、駐車場数などを考慮し、来場は事前予約制とした。 他の場所での開催は、難しいことから来年度以降についても事前予約として開催していく方向。
[定量-2]			
③			
[定量-2]			
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	推進組織等意見
[評価区分]			
①	無	里山で生産される間伐材など「安曇野材」を活用できる生産・流通の仕組みづくり「情報の見える化」システムにより、伐採、製材、木材活用がそれぞれの需要に適した運用として定着できるよう必要により適宜改善を図っていく。	(主な推進組織の名称：里山再生計画推進協議会) 安曇野材および安曇野材を取り扱う事業者の認知度を高めることが必要。 安曇野の木材の魅力を広範に拾い上げ、それらを言語化、可視化する取組も期待したい。
[定量-2]			
②	無	あつみの里山市は安曇野材に触れられるイベントとして定着してきており、今後も継続的に開催していく。	
[定量-2]			
③			
[定量-2]			

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当： 耕地林務課 林務担当			
No. 17		里山で活動するための技術・知識を身につけるための「さとぶろ。学校」の年間を通じた講座運営をする。	
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的内容	実施結果(数値) [結果/目標](%)
① [評価区分] [定量-2]	里山学びの環プロジェクト会議の開催 年3回開催	プロジェクトの運営検討 「さとぶろ。学校」運営会議の開催	9回 300%
② [定量-2]	「さとぶろ。学校」の開講 年7回 延べ受講者70人以上	「さとぶろ。学校」の開催 特別講座の開催	受講生15名 140%
③			
<small>※定量-1:実施した=▲ 達成しない=△ 計画しない=○ 計画したの中は○は△
 定量-2:実施数/目標数×100= 90~100%=▲ 80~89%=△ 70~79%=○ 60~69%=△ 50~59%=△ 40~49%=○ 30~39%=△ 20~29%=○ 10~19%=△ 0~9%=○</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
① [評価区分] [定量-2]	A	さとぶろ。学校の運営調整会議など必要により適宜開催できたことにより、内容の充実した講座を開催することができた。 急な天候の変化(突然の雨)などの対応について具体的な調整が必要。	
② [定量-2]	A	本年度は、講座を7講座増やし、7講座として開催。参加者も15名と多く、近年に無い参加希望があった。 受講後、多くの受講生がさとぶろ。の活動グループなどで里山活動を開始。	
③			
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	推進組織等 意見
① [評価区分] [定量-2]	無	さとぶろ。学校は 里山活動の入口として、様々なフィールドや取組、技術を体験しながら、里山での仲間を見つける企画であるため、今後も継続して実施する。	
② [定量-2]	無	本年度のように、さとぶろ。学校終了後、受講生が、引き続き里山活動に参加できるよう、積極的に支援を行う。	
③			
環境審議会 意見	・このままでよい。		(主な推進組織の名称：里山再生計画推進協議会) さとぶろ。学校が持続的に回る仕組みづくり、具体的に“カリキュラム”“体制”“受講生”の3要素を、第3次計画にむけていかに成長させていくかの議論を深めてほしい。

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当： 耕地林務課 林務担当			
No. 18		松枯れ対策事業を継続して行う。	
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	松枯損木伐倒くん蒸処理の実施 処理内の松枯損木数1,000本/年以下	・松枯損木伐倒くん蒸処理の実施 ・処理計画区域(三郷・堀金)	通年
[定量-2]			
②	薬剤散布による防除の実施 散布内の松枯損木数30本/年以下	・薬剤散布による防除 ・実施計画面積5ha/年	6月
[定量-2]			
③	樹幹注入による予防の実施 処理区域内松枯損木10本/年以下	・樹幹注入による予防 ・処理区域5ha	11月 ～ 3月
[定量-2]			
<small>※定量-1:実施した=▲ 実施しない=E 計画しなかった=○C 計画しなかった=○B 30~50=A 10~20=A 0~9=A-E 定量-2:実施数/目標数×100 90~100=A 80~89=B 30~50=A 10~20=A 0~9=A-E 定性:良かった=▲ ぶつぱら=○C 悪かった=E</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
①	A	全体の伐倒くん蒸処理 区域内(堀金・三郷)の枯れた松の処理 希少動植物への配慮。守るべき松林の範囲検討。	
[定量-2]			
②	A	有人へりによる散布を5ha実施 樹幹注入事業の検討。希少動植物への配慮。	
[定量-2]			
③	A	樹幹注入を計画的に更新し、予防することができた。 樹幹注入の効果期間の適正管理による継続的な実施。	
[定量-2]			
推進組織等 意見		(主な推進組織の名称:松くい虫被害対策協議会) 松枯れが1本残れば翌年10本程度枯れる。 市では毎年「徳門横横」で対応しているが、一旦処理をやめてしまうと翌年には、10億円規模の対応が必要となる。対応ができる倒木による人身被害等が懸念されることから、引き続き伐採処理が必要である。(令和6年5月8日開催)	
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会 意見
[評価区分]			
①	無	年間処理本数1,000本は下回っているものの、その年により被害量の変動もあり、被害を抑制するに至っていない。費用対効果については、松くい虫被害対策協議会において検証を行う。	・継続して実施してほしい。また、希少動植物に配慮してほしい。 ・安全面も考慮してほしい。 ・費用対効果は書いてないが、書いてほしい。検証の結果がどうだったか記してほしい。
[定量-2]			
②	無	無人へりによる薬剤散布を令和3年度から廃止。薬剤散布に替わる対策として令和2年度から樹幹注入により範囲を限定して対策を実施。有人へりについては計画通り実施していく。	
[定量-2]			
③	無	樹幹注入した松の枯損は少なく、今年より継続的な樹幹注入の更新を行う。	
[定量-2]			

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：農政課 農村振興担当			
No. 19		農地を計画的に保全し、農業生産と田園景観の基盤を守る。	
2. Do(実行)			
目標 [評価区分]	実施内容 目標(数値目標)	具体的な内容	予定時期
① [定量-2]	認定農業者数の確保・育成 認定農業者数270人	「人・農地プラン」の策定による 担い手の掘り起こし 新規就農者の確保	2月～3月
② [定量-2]	集落営農組織の設立支援 集落営農組織数27組織	集落懇談会への参加による支 援	通年
③			
<small>※定率・実績した→A 実績した→E 計画より10%以上→C 定率・実績した→A 実績した→E 計画より10%以上→C 定率・実績した→A 実績した→E 計画より10%以上→C 定率・実績した→A 実績した→E 計画より10%以上→C</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標 [評価区分]	達成※ 状況	成果 課題	
① [定量-2]	A	農業従事者数の減少が続いていく中、目標人数を達成させるために、引き続き適切に支援策を講じて行く必要がある。	
② [定量-2]	A	相談体制や助成制度の整備等の支援策を用意することはできても、組織の設立そのものは農業者の自主性に全的に依らざるを得ない。	
③			
推進組織等 意見		(主な推進組織の名称：農業・農村振興計画推進委員会) 市内の農業協同組合では、農業支援サービスを行っているので、サービス内容の周知及び拡充が必要と考えている 今後、担い手の高齢化が進行することから、市内の農業協同組合と連携して集落営農組織の維持を図りたい。	
4. Action(改善)			
目標 [評価区分]	変更の 必要性	結果の検証と次年度への展望など	
① [定量-2]	無	今年度は目標値を達成できた。今後も農業従事者数の減少が続いていくと見られるが、次年度も認定農業者数の目標値は達成できるものと展望している。	
② [定量-2]	有	一部の集落営農組織で解散があった。今後、各農家の高齢化により集落営農組織の重要性がより一層増してくることから、地域の話し合いを進め組織化を推進して行く必要がある。併せて、既存の集落営農組織の構成員の高齢化に備えていく必要がある。	
③			
環境審議会 意見		・数値目標に対する達成状況は悪くないが、オペレーターが不足しているなどの現状もある。農地の維持が課題であるので、農協なども協力しながら、組織再編の見直しも必要になると思う。	

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート		No. 20 荒廃農地対策を行う。	
担当：農政課 農村振興担当・農業委員会			
2. Do(実行)			
目標	実施内容	具体的な内容	具体的な実施内容
① <small>[評価区分]</small> <small>[数量-2]</small>	荒廃農地の解消支援 目標(数値目標) 19ha	・利用状況調査等の実施 ・安曇野市荒廃農地解消事業の活用	荒廃農地の発生・解消状況に関する調査、農業委員による啓発活動、利用権設定手続き、荒廃農地解消支援金の活用
②			
③			
<small>※実施・実績した⇒A 達成しない⇒E 計画より中間以上⇒C 定率・実績数値/目標数値×100⇒90⇒100⇒A 80⇒89⇒B 30⇒59⇒C 10⇒29⇒D 0⇒9⇒E 定率・達成した⇒A ぶつた⇒B⇒C 悪かった⇒E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
① <small>[評価区分]</small> <small>[数量-2]</small>	A		
②			
③			
<small>荒廃農地は減少しているが、担い手の確保等の荒廃防止の取り組みを続けていく必要がある。</small>			
4. Action(改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	推進組織等意見
① <small>[評価区分]</small> <small>[数量-2]</small>	無	農業の担い手の努力により荒廃農地は減少している。次年度も支援金交付等の支援策を継続していく。	(主な推進組織の名称：農業・農村振興計画推進委員会) 山林化した農地の非農地決定については、農地法による手続きで、農地所有者への意向に基づき行っている。 山沿いの農地については、地域の合意形成に基づき、放牧、鳥獣緩衝帯、緑肥、植林などの農地の粗放的利用について検討する。
②			
③			
環境審議会 意見		・特に山沿いの周辺が深刻な状況にあると思う。状況により棲み分けも必要になってくると思う。農地を林に戻すというようなことも考えてもいいと思う。	

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：耕地林務課 林務担当			
No. 22		鳥獣被害防止計画を策定（見直し）し、実施する。	
2. Do (実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[評価区分]	[結果/目標](%)		
①	1,079千円	・補助事業のホームページ等による周知を実施 ・サル追払い隊等の活動(令和5年8月より) ・サル用GPS装置設置	通年
[定量-2]	100%		
②	298頭	・新規狩猟者に支援 ・有害獣駆除、個体数調整による捕獲を実施 ※令和6年3月31日までの実績数値 (捕獲数: サル110頭、シカ170頭、イノシシ18頭)	3月末 通年
[定量-2]	93%		
③			
[評価区分]			
※定量-1: 実施した⇒A 実施しない⇒E 計画しなかった⇒C 定量-2: 実施数値/目標数値 × 100 90⇒A 80⇒B 30⇒55⇒C 10⇒25⇒D 0⇒5⇒E 定性: 良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
①	A	サルにGPS装置を装着でき、モンキーグッズの追払いに活用できた。	サルにGPS装置を装着でき、モンキーグッズの追払いに活用できた。
[定量-2]		サルの行動範囲が広がり、箇所ごとの対応が必要になっている。	サルの行動範囲が広がり、箇所ごとの対応が必要になっている。
②	A	農業被害をもたらす二ホンジカ、ニホンサルの個体数調整を実施した。	農業被害をもたらす二ホンジカ、ニホンサルの個体数調整を実施した。
[定量-2]		一斉捕獲及びびわな捕獲を今以上に進める必要がある。	一斉捕獲及びびわな捕獲を今以上に進める必要がある。
③			
[評価区分]			
推進組織等 意見		(主な推進組織の名称: 有害鳥獣対策協議会) 捕獲や追払いのみでは被害はなくなるので、各農家にも市の補助事業を活用するなど、ある程度の自衛が必要となる。	
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	環境審議会 意見
[評価区分]			
①	無	引き続き、農家個人による自己対策を推進するとともに、地域と連携した広域対策としてサルにGPS装置を装着しての追払いを実施していく。	・60%の理由が書かれていない。個体数調整だけが対策ではない。捕獲以外の対策もやっていると想うので記載してほしい。 ・サル追払い隊は全国的にも注目を浴びている。始まったばかりなので結果が見えてきていないが、続けていた結果が見えるようにしてほしい。 ・捕獲だけでなく他の対策も含めて積極的に取り組んでほしい
[定量-2]			
②	無	大型獣の捕獲を引き続き実施しの農林業被害を軽減していく。	
[定量-2]			
③			
[評価区分]			

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：耕地林務課 耕地担当			
No. 23		多面的機能支払交付金事業の運用・啓発を図る。	
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的な実施内容	期待等
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	多面的機能を支える組織への支援 役員会の開催年2回以上	広域協定運営委員会が事務の効率化を検討し、活動組織の事務軽減につなげる	広域協定運営委員会の会長会を1回、各地域役員会を1回、設立準備委員会を4回開催し、広域組織の統合について検討した。
[定量-2]			6回 100%
②	田園風景の保全のため、取組面積の増加を図る 事業取組面積 3700ha	遊休荒廃農地解消の取り組みや、水路や農道敷の草刈り作業により、安曇野の田園風景の保全を図る。	現在活動中の組織に事業範囲の確認、見直しを要請した。
[定量-2]			3720ha 100%
③			
[定量-2]			
※定率=事業取組面積/取組面積×100 90~100%⇒A 80~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E ※定率=取組面積/目標面積×100 90~100%⇒A 80~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E ※定性=良かった⇒A 良かった⇒C 悪かった⇒E			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
①	A	広域組織の統合後の事務軽減について、設立準備委員会で検討することができた。 統合後に活動する中で、さらに活動組織の事務軽減ができるか検討する必要がある。	広域組織の統合後の事務軽減について、設立準備委員会で検討することができた。 統合後に活動する中で、さらに活動組織の事務軽減ができるか検討する必要がある。
[定量-2]			
②	A	既存組織の取組面積が拡大した。 事業面積をさらに拡大し、田園風景の保全を進める必要がある。	既存組織の取組面積が拡大した。 事業面積をさらに拡大し、田園風景の保全を進める必要がある。
[定量-2]			
③			
[定量-2]			
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[評価区分]			
①	無	引き続き事務の効率化を検討し、活動組織の事務軽減を行う。	
[定量-2]			
②	無	事業取組面積の増が進んだが、新規取組組織発足に向けて広く市内に普及啓発を推進する必要がある。	
[定量-2]			
③			
[定量-2]			
環境審議会意見	・農家だけでなく地域の人にも協力していただき事業を継続してほしい。		
推進組織等意見	(主な推進組織の名称：農業・農村振興計画推進委員会) 特に意見なし		

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：都市計画課 公園緑地担当			
No. 24 緑の恵みを感じることができる講座を開催する。			
2. Do(実行)			
目標 [評価区分]	実施内容 目標(数値目標)	実施結果(数値) [結果/目標](%)	具体的な実施内容 期日等
① [定量-1]	緑の恵みを感じることができる講座開催 6回・70人/年	5回 83%(回数) 100%(人数)	①樹木鑑賞ツアー(6人)②花壇づくり講座(秋16人)(春30人)③ハンギングバスケット講座(13人)④寄せ植えコンテスト(25人)合計5回開催で90人参加 ①10/16 ②10/28、3/23 ③11/15 ④10/21
② [定量-1]			
③ [定量-1]			
<small>※定量-1:実施した⇒A 未実施しなかった⇒E 計画しなかった⇒C 定量-2:実施回数/目標回数×100= 90~100%⇒A 60~89%⇒B 30~59%⇒C 10~29%⇒D 0~9%⇒E 定性:良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E</small>			
3. Check(点検・評価)			
目標 [評価区分]	変更の 必要性	達成※ 状況	成果 課題
① [定量-1]	無	A	今年度の目標を達成することができた。昨年より参加者が増えつつあり、市民の関心が高まりつつある。 市民参加を促す講座内容を見直し企画する。
② [定量-1]			
③ [定量-1]			
4. Action(改善)			
目標 [評価区分]	結果の検証と次年度への展望など	推進組織等 意見	(主な推進組織の名称:緑の基本計画推進協議会)
環境審議会 意見	・効果を検証しながら事業を継続してほしい。	市民参加を継続するため、頃合いを見て講座内容を見直す。	

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：建築住宅課 建築景観係			
No. 25 景観条例や屋外広告物条例の運用・啓発を行う。			
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的内容	予定時期
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	景観及び屋外広告物の周知・啓発 年8回	景観条例、屋外広告物条例の周知に伴う広報及び講座の開催	通年
[定量-1]			
②	景観及び屋外広告物の定期パトロール 年36回	景観及び屋外広告物の定期パトロールにより、未申請案件の把握と適正な指導を行う。	月3回
[定量-1]			
③			
[定量-1]			
<small>※定量-1:実施した→A 実施しない→E 計画したがいまだに→C 定量-2:実施回数/目標回数×100= 90→100⇒A 80→89⇒B 30→59⇒C 10→29⇒D 0⇒F⇒E 定性:良かった→A ぶつた→B⇒C 悪かった→E</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	達成状況
[評価区分]			成果 課題
①	有	安曇野市の景観や屋外広告物について、市民及び事業者等の理解を深めていただくように広報・啓発方法について検討していく。	A 安曇野の景観を再認識し、他市の美観地域を参考にすることで活動の参考とすることができた。景観に関する周知、広報を行うこと 一定量の認識向上にはなっているが、新たな周知方法が必要。
[定量-1]			
②	有	実施すれば成果があるため、定期パトロールだけではなく、随時、パトロールを実施していく。	A パトロールにより、申請未届けの案件など指導し、申請等手続きを行った。 新規進出事業者等に対して着手前申請の周知徹底が難しく、方法等検討が必要。
[定量-1]			
③			
[定量-1]			
4. Action (改善)			
目標	環境審議会意見	環境審議会意見	推進組織等意見
[評価区分]			(主な推進組織の名称：景観審議会)
	・住民協定の関わりなど、大きな成果も見られる。今後も効果を検証しながら事業を継続してほしい。		・引き続き取り組みを推進してほしい。

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当			
No. 26		地下水涵養に資する手法などの調査・研究・試行を実施する。	
2. Do (実行)			
目標	実施内容	具体的内容	実施結果(数値) [結果/目標](%)
[評価区分]	目標(数値目標)		
①	地下水講座等の開催 参加者延170人以上	出前授業(児童・生徒等)・出前講座(区・企業等)及び市民参加体験プログラムの実施	264 155.3%
②	人為的な地下水涵養 240万m ³ /年	水資源対策協議会における涵養施策の検討	236.9万m ³ 99%
③			
<small>※実施→実施した→A 未実施→E 計画したのみ→C 定量→定量的/目標数値×100=90→100→A 80→89→B 30→89→C 10→29→D 0→9→E 定性→良かった→A ぶつた→C 悪かった→E</small>			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
[評価区分]			
①	A	令和4年度に引き続き、コロナ禍であったが小学校3校、団体1団体で出前授業・講座を実施することができた。	
②	A	ほぼ、年度目標の達成に向けた取り組みができた。	
③		ほぼ、年度目標の達成に向けた取り組みができた。	
<small>気候変動により、秋から冬にかけての降雨が少なく、地下水位の低下・湧水量が減少してきている。</small>			
<small>(主な推進組織の名称：水環境審議会)</small>			
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	推進組織等 意見
[評価区分]			
①	無	引き続き、出前授業・講座を実施していき、市民等に向けた効果的な学習の場を広げられるよう情報発信及び取り組みを推進していく。	
②	有	引き続き、人為的な地下水涵養施策を進める。	
③			
環境審議会 意見		<ul style="list-style-type: none"> 他団体に協力してもらえよう積極的に働きかけていただきたい。 工業団地を新しく作るときは浸透施設を作っている。工業系も積極的に涵養しているという文言を入れてほしい。 	

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：環境課 環境政策担当		No. 27 雨水貯留施設の設置に対する補助を行う。	
1. Plan (計画)			
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期
[詳細区分]	目標(数値目標)		
①	雨水貯留施設設置補助基数 14基/年	水の節水を目的に、市民向けへ施設設置補助の周知及び設置数の増を進める。	通年
②			
③			
<small>※定量→実施した⇒A 未実施しない⇒E 計画したが中止した⇒C 定量→実施数量/目標数量×100= 90~100⇒A 80~89⇒B 30~59⇒C 10~29⇒D 0~9⇒E 定性:良かった⇒A ふつうだった⇒C 悪かった⇒E</small>			
2. Do (実行)			
目標	実施結果(数値)	具体的な実施内容	期日等
[詳細区分]	[結果/目標](%)		
①	6基 43%	雨水貯留施設設置及び補助金の活用を促すため、市HP、市内資機材店舗内にPRチラシを設置するなどし推進した。(R6.3.6現在)	通年
②			
③			
3. Check (点検・評価)			
目標	達成状況	成果	課題
[詳細区分]			
①	D	当施設設置者への補助金交付を行った。 市内資機材店舗等へのチラシ設置等による周知の強化。	
②			
③			
推進組織等 意見		(主な推進組織の名称:水環境審議会)	
環境審議会 意見		一般家庭で雨水を有効に使うことが、地下水涵養の広がりにつながる一方で、積極的に取り組んでほしい。	
4. Action (改善)			
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
[詳細区分]			
①	有	令和9年度 第2次安曇野市水環境基本計画策定に合わせ、「節水」目的の補助制度の検討。	
②			
③			
環境審議会 意見		<ul style="list-style-type: none"> ・節水効果、費用対効果をPRIに使うことで効果があるか分からないが、市内資機材店舗以外に、工務店やメーカーなどPRする場所はないか。 ・実際設置した人がどこで知っているのかが重要である。 ・今年度もやりたい人がもっといたかもいいかもしれない。設置した人がどうだったかも知りたい。 	

【各分野における基本計画事業】		環境基本計画 重点取り組み PDCAシート		No. 28 管理不十分な空家などへの指導をする。	
担当：移住定住推進課 空家活用係					
1. Plan (計画)					
目標	実施内容	具体的な内容	予定時期	実施結果(数値)	具体的な実施内容
[評価区分]	目標(数値目標)			[結果/目標](%)	
①	空家対策補助金の交付による空家活用及び解体における環境保全の促進	・広報及び空家所有者への個別周知により、空き家バンク活用と移住等による空家利活用及び解体を促進するため、空家対策補助金の利用向上を図る。	通年	70	補助金制度は、所有者及び活用者向けと地域活性化を要件とする11メニューの支援体制となっている。 ・片付け清掃 14件・空家解体 20件・ようこそ、安曇野へ 11件・生かそう、地域資源 4件・おかえり、安曇野へ 6件・空き家バンク支援(登録者) 8件・空き家バンク(移住者) 7件
[定量-2]	補助金交付35件			実施中(200%)	
②	空家相談会、講座、空家空き店舗見学会の開催	・空家相談会、講座などを実施し、制度を含め幅広く予防啓発など周知を図る。空家空き店舗の見学会によるマッチング強化とまちづくりを生かす空家活用を推進する。	通年	6回	民法改正等による空家予防啓発と空家の利活用、課題解決を図る為の相談会、またあるきイベントによるマッチングを開催。 ・相談について考える講演会 30名、同時開催の予約性個別相談会 7名、専門家現地派遣相談会 4件・明科駅前周辺まちあるき空家空き店舗見学会(3回 計25名)
[定量-1]	年5回以上			実施済(120%)	
③	立ち入り調査に基づく適切な指導	・所有者による自発的な行動を促すため特定空家への認定を進め、助言・指導・勧告による特定空家の解消を図る。	通年	3件	特定空家について、助言、指導を実施。また、特定空家認定に係る立ち入り調査を8件実施。 特定空家の解体 3件(豊科・穂高・明科)
[定量-1]	特定空家の解消(5件以上)			実施中(60%)	
※空家-1:実施済→A 未実施→B E 計測しなかった→C 空家-2:実施済/目標数×100=90→100⇒A 80→89⇒B 30→59⇒C 10→29⇒D 0⇒F⇒E 定住:良かった⇒A なかった⇒B⇒C 悪かった⇒E					
4. Action (改善)					
目標	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など		達成状況	成果
[評価区分]				[評価区分]	課題
①	無	補助金の利活用促進のため、所有者及び活用希望者への情報発信を強化する。地域交流の場となる地域活性化を要件とした空家利活用やポットハウスや避難空地など公的な敷地利用の補助金(R5新設)の活用促進を図り、地域活力及びコミュニティ増進に繋げる。		A	ニーズに即したメニューが活用され、申請件数は前年度より増加した。解体による土地の有効活用や環境保全、移住者等による空家の利活用により地域活性化が図られた。 利活用可能な空家(資源)は、市場流通につながるよう市空き家バンクへの登録を促し、多様化する空家利活用のニーズに対応することで、移住定住の機会損失を抑制する。
[定量-2]					
②	無	所有者の関心が高い情報を効果的に発信していく必要がある。相続登記義務化などタイムリーな情報に関する講演や相談会を通して、空家所有者のデメリットやリスク、利活用することのメリットなどを所有者をはじめ、地域の方々へも共通認識として捉えてもらうため、多様な手段による所有者と活用希望者のマッチングに取り組む必要がある。		A	民法や空家特措法の改正による固定資産税増徴など空家所有者の関心が高まっており、講演会や相談会を通じ、具体的な解決について所有者の自発的な行動に繋げることができた。 依然、県外など遠方に居住している所有者の意識が希薄であることから、関心を高めるための情報提供や伝え方への工夫が必要である。
[定量-1]					
③	無	自発的な行動が見られない所有者に対する課題解決への手法を検討する必要がある。空家特措法に基づく、助言・指導・勧告・命令等による措置並びに相続財産清算人や所有者不明建物、管理不全建物に特化した管理人制度を活用するなど、ケースに応じて柔軟に対応し、危険な特定空家等の解消を促進させる。		B	特定空家や不良住宅の所有者に対する助言、指導の成果により、空家解体補助金を活用した自発的な解体が促進された。 認定された特定空家の解消に向けた所有者との交渉、支援。
[定量-1]					
環境審議会意見		・住宅新築の建設費が高騰しているため、空き家に対する需要もあると思う。事業の掘り起こしや、マッチングを頑張ってもらいたい。 ・相続登記が義務化されるので、今後さらに取組みを進めてほしい。		推進組織等意見 (主な推進組織の名称:安曇野市空家等対策協議会) 空家の利活用が促進されるよう空家予備軍や相続を迎える世代等への予防啓発や相談会を継続的に行いながら、専門団体等との官民連携体制を整え、多様なマッチングを推進していく。	

【各分野における基本計画事業】			
環境基本計画 重点取り組み PDCAシート			
担当：政策経営課 企画担当			
No. 29	デマンド交通「あづみん」、「定時定路線」の運行を行う。		
2. Do(実行)			
目標 [評価区分]	実施内容 目標(数値目標)	具体的な実施内容	実施結果(数値) [結果/目標](%)
① [定量-2]	デマンド交通「あづみん」、コミュニティバス(定時定路線)の運行 デマンド交通利用者88,000人/年	・デマンド交通「あづみん」の運行 ・コミュニティバス(定時定路線)の運行	88,355人(R6年3月末)
② [定量-1]	利便性向上に向けた実証運行・検証 ・協議会での会議年2回	実証運行からの利用者実需の把握と社会実装の準備	2回 100%
③			
※定量-1:実施した回数 実施しない回数 計画した回数以上はC 定量-2:実施回数/目標回数×100 80~100はA 60~79はB 30~59はC 10~29はD 0~9はE 定性:良かったはA 悪かったはE			
3. Check(点検・評価)			
目標 [評価区分]	達成状況	成果 課題	
① [定量-2]	B	コロナの影響からの回復も見られ、安定した利用をいただいている 予約の約30%をアプリ予約となっており、今後、更なる利用促進に向けた啓発が必要である。	
② [定量-1]	A	デマンドの課題を整理し、休日運行の社会実装が実施出来た。 土曜日:平均100名/日、日曜日:平均70名/日 の利用があった。 来訪者の利用はごく少数であったが、継続的な周知を図ることで利用者増を狙うことが出来る。	
③			
推進組織等 意見	(主な推進組織の名称:地域公共交通協議会) 特に意見なし		
4. Action(改善)			
目標 [評価区分]	変更の必要性	結果の検証と次年度への展望など	
① [定量-2]	無	AI型予約システム導入によるスマートフォンアプリからの予約を可能とした。また、LINEからの予約も可能とすることで、より便利に利用できる環境を整備した。	
② [定量-1]	無	・土日初日運行でのニーズ検証を実施した。配車台数を平日の半以下として実施。来訪者ニーズも合わせて検証した。	
③			
環境審議会 意見	・引き続きデマンド交通の市民の利便性と地域公共交通の社会動向及び経済性への検証を行い、取り組みへの反映を進めていただきたい。実態調査を活用して充実させてほしい。		

5 - 4 環境指標達成状況（基本計画 P 32-33）

環境基本計画で定めた環境指標の達成状況を下表に示します。

個別目標	環境指標	基準年	予定年	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	目標
		(2016年度)	(2017年度)	(2018年度)	(2019年度)	(2020年度)	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	
1 山岳地をまもる	山岳に関するイベントの参加者数 (登山マナーの普及啓発を含む)	3,800 人/年	4,000 人/年	3,000 人/年	3,500 人/年	0 人/年	0 人/年	0 人/年		
	安曇野材の年間利用実績	150 m ³ /年 50.0%	154 m ³ /年 51.3%	113 m ³ /年 37.7%	160 m ³ /年 53.3%	-	249 m ³ /年 83.0%	254 m ³ /年 84.7%	283 m ³ /年 94.3%	300 m ³ /年 100.0%
2 里山をまもる	さとふる。学校（里山学校）の年間参加者数（延べ）	105 人/年 95.5%	283 人/年 257.3%	352 人/年 320.0%	101 人/年 91.8%	33 人/年 30.0%	43 人/年 39.1%	66 人/年 60.0%	88 人/年 80.0%	110 人/年 100.0%
	認定農業者数	267 経営体 98.9%	273 経営体 101.1%	281 経営体 104.1%	283 経営体 104.8%	273 経営体 101.1%	288 経営体 106.7%	293 経営体 108.5%	286 経営体 105.9%	270 経営体 100.0%
3 里地をまもる	集落営農組織数	27 組織 100.0%	27 組織 100.0%	25 組織 92.6%	27 組織 100.0%					
	多面的機能支援交付金事業活動組織取組面積 注1)	-	-	-	-	-	-	-	3,720 ha 96.6%	3,850 ha 100.0%
4 川や水辺をまもる	「生きもの調査」の実施	1 回/5年 100.0%		1 回/5年 100.0%					1 回/5年 100.0%	1 回/5年 100.0%
	特定外来種駆除活動の参加者数	7,790 人/年 97.4%	7,228 人/年 90.4%	6,923 人/年 86.5%	7,194 人/年 89.9%	3,054 人/年 38.2%	4,607 人/年 57.6%	6,007 人/年 75.1%	5,987 人/年 74.8%	8,000 人/年 100.0%
5 生きものをまもる	1人当たり都市公園・その他公園の面積（国営・県営公園を除く）	7.9 m ² /人 85.9%	7.9 m ² /人 85.9%	7.9 m ² /人 85.9%	8.2 m ² /人 89.1%	8.2 m ² /人 89.1%	8.2 m ² /人 89.1%	8.7 m ² /人 94.6%	8.7 m ² /人 94.6%	9.2 m ² /人 100.0%
	緑の恵みを感じることができる講座の開催	2 回/年 50.0%	4 回/年 100.0%	4 回/年 100.0%	4 回/年 100.0%	3 回/年 75.0%	5 回/年 125.0%	5 回/年 125.0%	5 回/年 125.0%	4 回/年 100.0%
6 身近な自然とふれあう	景観に関する広報及び講座の開催	0 回/年 0.0%	1 回/年 8.3%	1 回/年 8.3%	0 回/年 0.0%	2 回/年 16.7%	2 回/年 16.7%	2 回/年 16.7%	6 回/年 50.0%	12 回/年 100.0%
	上水道普及率	99.0% 99.0%	99.0% 99.0%	99.1% 99.1%	99.8% 99.8%	99.2% 99.2%	99.2% 99.2%	99.2% 99.2%	99.2% 99.2%	99.2% 99.2%
8 豊富できれいな水の環境をまもる	水洗化率	81.9% 91.6%	84.0% 94.0%	84.6% 94.6%	85.3% 95.4%	86.3% 96.5%	86.9% 97.2%	87.7% 98.1%	88.1% 98.5%	89.4% 100.0%
	人為的な地下水涵養量 注2)	-	-	-	-	-	-	-	240.5 万 m ³ 80.2%	300.0 万 m ³ /年 100.0%
9 きれいな空気と静かな環境をまもる	窒素酸化物・ダイオキシン類濃度測定値※R2年度でダイオキシン類調査業務廃止	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下	基準値以下
	自動車交通騒音測定値基準値超過地点	1 地点	1 地点	1 地点	0 地点					
10 公害・化学物質などの問題をなくす	苦情件数	265 件/年 132.5%	254 件/年 127.0%	179 件/年 89.5%	143 件/年 71.5%	97 件/年 48.5%	206 件/年 103.0%	231 件/年 115.5%	242 件/年 121.0%	200 件/年 100.0%
	市民1日1人当たりのごみ排出量	787 g/人・日 100.6%	785 g/人・日 100.4%	796 g/人・日 101.8%	790 g/人・日 101.0%	801 g/人・日 102.4%	813 g/人・日 104.0%	821 g/人・日 105.0%	702 g/人・日 89.8%	782 g/人・日 100.0%
11 ごみを少なくする	資源物排出量	3,354 t/年 106.7%	2,995 t/年 93.3%	2,793 t/年 88.9%	2,648 t/年 84.3%	2,585 t/年 82.3%	2,646 t/年 84.2%	2,371 t/年 75.5%	1,930 t/年 61.4%	3,142 t/年 100.0%
	事業系可燃ごみ排出量	10,859 t/年 102.1%	11,088 t/年 104.2%	11,162 t/年 104.9%	11,549 t/年 108.6%	11,427 t/年 107.4%	11,413 t/年 78.5%	11,743 t/年 110.4%	10,559 t/年 95.2%	10,639 t/年 100.0%
12 地球温暖化に対応する	安曇野地域の温室効果ガス排出量 注3)	71.3 万t-CO ₂ 当り 185.2%	71.5 万t-CO ₂ 当り 185.7%	70.8 万t-CO ₂ 当り 183.9%	65.9 万t-CO ₂ 当り 171.2%	60.2 万t-CO ₂ 当り 156.4%	65.9 万t-CO ₂ 当り 171.2%	2025年推計 171.2%	2026年推計 171.2%	38.5 万t-CO ₂ 当り 100.0%
	太陽光発電設備の導入件数 注4)						4,950 件 82.5%	5,242 件 87.4%	2025年推計 87.4%	6,000 件 100.0%
	市施設における再生可能エネルギー設備設置施設数								28施設 46.7%	60施設 100.0%
	「あづみん」(デマンド交通)の利用者数	85,365 人/年 98.1%	85,123 人/年 97.8%	86,273 人/年 99.2%	86,681 人/年 99.6%	75,970 人/年 87.3%	78,975 人/年 90.8%	80,554 人/年 92.6%	86,355 人/年 99.3%	87,000 人/年 100.0%
13 環境情報を充実させる	安曇野エコプラン.netアクセス数	-	1,030 件/年 29.4%	2,080 件/年 59.4%	3,772 件/年 107.8%	2,297 件/年 65.6%	3,406 件/年 97.3%	5,370 件/年 153.4%	4,911 件/年 140.3%	3,500 件/年 100.0%
	安曇野市環境市民ネットワークによる環境学習プログラムの提供数	24 件/年 80.0%	24 件/年 80.0%	24 件/年 80.0%	24 件/年 80.0%	23 件/年 76.7%	21 件/年 70.0%	22 件/年 73.3%	23 件/年 76.7%	30 件/年 100.0%
14 環境について学ぶ・体験する	安曇野環境フェア来場者数	1,900 人/年 95.0%	1,700 人/年 85.0%	1,800 人/年 90.0%	台風により中止	新設コソコソ(1)の開催により中止	新設コソコソ(1)の開催により中止	1,400 人/年 70.0%	1,800 人/年 90.0%	2,000 人/年 100.0%
	信州型自然保育を受ける児童の割合	52.0 %/年 70.3%	53.9 %/年 72.8%	54.4 %/年 73.5%	57.9 %/年 78.2%	58.9 %/年 79.6%	58.5 %/年 79.1%	61.1 %/年 82.6%	62.6 %/年 84.6%	74.0 %/年 100.0%
	教育機関における環境学習に係る出前講座回数								11 回/年 110.0%	10 回/年 100.0%
	行動計画に基づく環境学習の開催数	9 回/年 90.0%	10 回/年 100.0%	10 回/年 100.0%	12 回/年 120.0%	4 回/年 40.0%	4 回/年 40.0%	5 回/年 50.0%	7 回/年 70.0%	10 回/年 100.0%
15 環境保全活動を活発にする	環境美化活動団体数(累計)	217 団体/年 51.7%	215 団体/年 51.2%	307 団体/年 73.1%	346 団体/年 82.4%	358 団体/年 85.2%	441 団体/年 114.8%	397 団体/年 94.5%	420 団体/年 100.0%	420 団体/年 100.0%
	環境美化活動参加者数(累計)	34,187 人/年 79.5%	31,894 人/年 74.2%	42,538 人/年 98.9%	42,422 人/年 98.7%	35,008 人/年 81.4%	42,745 人/年 98.9%	37,793 人/年 87.9%	38,827 人/年 90.3%	43,000 人/年 100.0%

注1) 第6年次(改定時)より2027年度の指標を変更
 注2) 妻と湛水事業及び新規需要米等転作推進事業等による継続的な地下水涵養量を集計(第6年次(改定時)より2027年度の指標を変更)
 注3) 第2次地球温暖化対策実行計画(第5章)の2030年度目標値
 注4) 環境省自治体排出量カルテに記載されている数値(FIT制度で認定された設備のみ)

5-5 参加と協働

基本計画に定めた施策のうち、個別目標13から15にかかる施策について、各担当が取り組みを進めました。ここでは、環境情報の充実や環境学習の推進、環境保全活動の活発のために環境課が行った取り組みのうち、参加と協働という視点で特徴的だった事業についてのみ記述します。

(1) 安曇野環境フェア2023

【開催概要】

- | | |
|----------|--|
| ア) コンセプト | 豊かで美しい自然環境を守り、快適な生活環境を次代につなぐ
まちをつくろう！ |
| イ) テーマ | ゼロカーボン 未来につなごう、安曇野の自然 |
| ウ) 主催 | 安曇野市、安曇野環境フェア 2023 実行委員会 |
| エ) 共催 | 安曇野環境市民ネットワーク |
| オ) 日時 | 令和5年10月7日(土) 9時30分～16時
8日(日) 9時～16時 |
| カ) 会場 | 安曇野市堀金総合体育館(安曇野市堀金烏川 2662) |
| キ) 来場者数 | 1日目：約1,100人 2日目：700人 計1,800人 |

6 その他

6-1 安曇野市環境基本計画庁内調整会議

環境基本計画庁内調整会議において、基本計画及び行動計画の進捗状況の確認と課題の検討を行うとともに、各種施策の調整を行いました。また、実施計画書及び年次報告書の原案や、これまでの取り組みの点検・評価の結果、関連計画の改定を踏まえて行動計画の改定案を作成し、審議会への報告を行いました。

6-2 安曇野市生物多様性アドバイザー

安曇野市の豊かな自然環境や動植物種の多様性を将来にわたり維持していくことを目的に、安曇野市版レッドデータブック等で著された希少生物の保護及び重要な自然環境の保全等に関し、専門家の意見を聴くため、連絡会議を6回開催したほか、必要に応じて意見照会を行いました。

6-3 安曇野環境市民ネットワーク

6-3-1 概要と事業内容

安曇野環境市民ネットワーク（以下「ネットワーク」という）は、市内または各地域において環境保全のための活動を行っている団体や個人が集まり、協働や連絡・調整を行うことによって、より良い安曇野の環境を創出することを目的として平成21年9月に発足しました。

事業内容は、大きく分けて①コミュニケーション、②環境学習の企画と実施、③環境基本計画および行動計画の実施、④普及啓発の4つです。

令和5年度の組織体制及び事業内容は次のとおりです。

(1) 組織体制

- (1) 会員構成 : 23団体
- (2) 役員構成 : 運営委員 14人（座長 1人、副座長 1人、会計 1人、監事 1人含む）
- (3) 事務局 : 安曇野市 市民生活部 環境課

(2) 事業内容

(1) 主催事業

- (1) -①運営委員会、総会、環境講座「環カフェ」の開催

実施日	会議等名称	内 容
5月28日	第1回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> ・「緑のカーテン講座」 ①地球温暖化、省エネ対策等について ②緑のカーテンの作り方（ゴーヤ編） ・講師等：①環境課職員（環境政策担当） ②NPO 法人あづみ野風土舎の皆様 ・参加者：45人
7月26日	第2回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> ・特定外来生物「ウシガエル」の学習 ・講師等：長野県環境保全研究所 主任研究員 北野聡 氏 ・参加者：30人
2月17日	第3回 「環カフェ」	<ul style="list-style-type: none"> ・「安曇野市生きもの調査2023」報告会と共催 ・記念講演会講師：安田守氏（生きもの写真家）
3月1日	運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度総会についてほか ※書面開催
3月19日	総会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度事業報告及び収支決算 ・令和6年度事業計画及び収支予算 ・役員改選

(1) -②登録団体間の情報交換及び情報発信事業

登録団体の開催するイベントや環境関連の様々な情報について、メーリングリストやWeb ページ「安曇野エコプラン.net」上での情報発信などを行いました。

また、主催・共催事業の開催にあたっては広報誌で周知したほか、必要に応じてチラシを作成し、公共施設及び市内小・中学校等に配布しました。

(2) 共催事業

(2) -①安曇野環境フェア 2023

5年ぶりに、堀金総合体育館で開催しました。ネットワーク登録団体をはじめ、市内外で環境活動を行っている団体等との情報交換が図られました。また、市内の環境に関するさまざまな情報・現状を来場者の方々に知ってもらうことができました。

【開催概要】

- ア) コンセプト 豊かで美しい自然環境を守り、快適な生活環境を次代につなぐまちをつくろう！
- イ) テーマ ゼロカーボン 未来につなごう、安曇野の自然
- ウ) 主催 安曇野市、安曇野環境フェア 2023 実行委員会
- エ) 共催 安曇野環境市民ネットワーク
- オ) 日時 令和5年10月7日（土）9時30分～16時
8日（日）9時～16時
- カ) 会場 安曇野市堀金総合体育館（安曇野市堀金烏川 2662）
- キ) 来場者数 1日目：約1,100人 2日目：700人 計1,800人

(3) 後援事業

(3) -①ネットワーク登録団体等の関連イベントの後援及び情報発信

ネットワーク登録団体の関連イベントについて後援を行ったほか、メーリングリスト、市サブサイトのWebページ「安曇野エコプラン.net」上での情報発信を行いました。

(4) 協力事業

(4) -①学校や市民団体等からの講師依頼対応（環境学習資源の有効活用に係わるコーディネート）

アルプスあづみの公園管理センター主催・共催するの「さとやま楽校」の一部講座について、ネットワーク加入団体が講師を務め、地域の学生や住民への環境学習推進に御尽力いただきました。

令和5年度 さとやま楽校

実施日	内容	主催/講師等
4月23日 5月14日 6月3日、24日 7月9日 8月11日、26日 9月2日、17日 10月1日、9日 10月21日	やまこの教室 「オリエンテーション飼育林準備」等 計12回 参加者：延べ217人	主催：やまこの学校 共催：国営アルプスあづみの公園 講師：やまこの学校会員
5月21日 6月17日、24日 7月1日、29日 9月9日、23日 11月3日	田んぼの教室 「田植え」等 計8回 参加者：延べ284人	主催：国営アルプスあづみの公園 共催・講師：みのむしの会、生活協同組合コープながの、岩原の自然と文化を守り育てる会 各会員
5月13日 6月4日 7月9日 8月6日 9月3日	里山いきもの教室 「初夏の生き物観察」等 計5回 参加者：延べ54人	主催：国営アルプスあづみの公園 講師：三郷昆虫クラブ会員、田淵行男記念館こども自然観察教室、「むしの会」中田 信好氏、安曇野市文化課 斉藤 雄太氏

(4) -②特定外来生物 オオカワヂシャ駆除（都市計画課主催の憩いの池清掃に協力）

【概要】

- ア) 内容 オオカワヂシャの駆除（抜取り）
- イ) 主催 安曇野市 都市計画課
- ウ) 協力 安曇野環境市民ネットワーク
- エ) 日時 7月14日（金）、9月15日（金） 午前9時～午前11時30分

オ) 場所 安曇野わさび田湧水群公園 (憩いの池)
カ) 参加者数 7月14日(金) 4名
9月15日(金) 3名 延べ7名(水結など含む)

(4) -③安曇野市環境審議会、環境基本計画庁内調整会議との連携・協力

安曇野市環境基本計画・環境行動計画との連携、協力として、安曇野市版環境家計簿、特定外来生物リポーター事業へ参加しました。

(5) 参加団体による活動

ネットワーク登録団体間や環境審議会との情報共有を目的として活動状況アンケートを実施したところ、全23団体のうち16団体より回答がありました。

なお、アンケート結果の詳細を参考資料として次ページ以降に示します。

7 参考資料

令和5年度 安曇野環境市民ネットワーク 活動アンケート結果

○報告を受けた団体一覧

活動分野	団体名
生活	安曇野市消費者の会
生活、環境	安曇野市不用食器リサイクル実行委員会
地球温暖化	安曇野地球温暖化協議会
景観、農林	NPO 法人 安曇野ふるさとづくり応援団
環境	アルプスあづみの公園管理センター
景観	アルプス花街道実行委員会
自然	烏川溪谷緑地 環境管理事務所
景観	三角島ふるさとの森プロジェクト
自然、環境	NPO 法人 信州ツキノワグマ研究会
自然、生活	生活協同組合コープながの
自然	田淵行男記念館 こども自然観察教室「むしの会」
地球温暖化	マイ箸づくりサポートボランティア
自然、景観	特定非営利活動法人 森倶楽部 21
景観	屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト
自然	野生生物資料情報室
自然	やまこの学校

(50 音順)

■令和5年度 安曇野環境市民ネットワーク登録団体 年間活動状況

アンケート回答がありました団体の年間活動記録について以下に掲載します。

団体名	安曇野市消費者の会
-----	-----------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
11月17日	KDDI スマホ・ケータイ安全教室	市役所 402	11名
5月10日 6月23日 7月16日 8月24日 9月11日 10月11日	豆腐作り	農産加工センター	各回 5～9名
6月17日	肉まん作り	農産加工センター	21名
7月26日	シソジュース作り	農産加工センター	15名
11月20日	福神漬作り	農産加工センター	13名
12月1日	りんごジュース作り	農産加工センター	11名
12月15日	コンニャク・キムチの素作り	農産加工センター	13名
2月26日 ～28日	味噌作り	農産加工センター	16名

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名：KDDIスマホ・ケータイ安全教室

理由：持っていても通話・メール利用以外には、いろいろな機能を使いこなせない。私ども（中高年世代）世代なので、安全のための注意点やゲーム的な能活利用などが学べてよかった。

団体名	安曇野市不用食器リサイクル実行委員会
-----	--------------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
10月1日	不用食器の回収 (雨天のため中止)	県民豊科 運動広場	—

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 例年 もったいない市の反響大

理由 : 新品の食器、好みの食器が無料で配布される。

団体名	安曇野地球温暖化協議会
-----	-------------

講演・講座・イベント等

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
10月7日 8日	安曇野環境フェア 2023 に出展と環境活動 発表会で講演	堀金総合 体育館	—

交流・会議・活動等

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
6月1日 ～12日 6月16日 6月23日 6月30日 ～7月4日 7月7日	長野県地球温暖化防止活動推進員有志と 事務局にて「信州版夏の省エネガイドブ ックー2023 年度改訂版ー」を作成、長野 県地球温暖化防止活動推進センターHP に 掲載	長野野県地球 温暖化防止活 動推進センタ ー及びオンラ イン	15名、 事務局
6月23日	「地場産業への気候変動影響調査アドバ イザー研修」に出席	JA 長野県ビ ル及びオンラ イン	43名、 事務局
10月5日	安曇野市総合計画審議会に出席	安曇野市 本庁舎	21名、 事務局
4月21日 11月17日 1月18日 3月15日	安曇野市環境審議会に出席	安曇野市 本庁舎	15名

5月31日 6月15日 6月29日 8月3日 8月24日 8月30日 9月1日	環境審議会事前打ち合わせ及び「安曇野市における地球温暖化対策推進体制の強化に関する意見書」策定に出席と提出	安曇野市本庁舎	2名 事務局
10月13日 10月27日 11月24日	長野県地球温暖化防止活動推進員有志と事務局にて「信州版冬の省エネガイドブックー2023年度改訂版ー」を作成、長野県地球温暖化防止活動推進センターHPに掲載	長野県地球温暖化防止活動推進センター及びオンライン	15名 事務局
毎月 第4金曜日	アルプス広域Co連絡会／長野県産業振興機構 松本センター	松本合庁	22名 事務局

研修・研鑽等

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
6月16日	第11期長野県地球温暖化防止活動推進員委嘱式及び研修会に出席	長野市生涯学習センター及びオンライン	43名 事務局
9月5日	脱炭素経営セミナー・事業者の脱炭素経営入門（中部7県地球温暖化防止活動推進センター主催）に出席	WEB会議	—
11月11日 11月30日 12月12日 12月22日 2月13日	ゼロカーボンナビゲーター養成講座第1～5回	オンライン	—

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名： 長野県地球温暖化防止活動推進員有志と事務局にて「信州版冬の省エネガイドブックー2023年度改訂版ー」を作成、長野県地球温暖化防止活動推進センターHPに掲載

理由： TV局から取材があり放送された。

団体名	NPO 法人 安曇野ふるさとづくり応援団
-----	----------------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月23日	第32回ふるさとウォッチング	三郷 七日市場	28名
5月19日 ～6月30日	ふるさと探究～豊科北中2年	豊科重柳	35名
6月24日	ふるさと探究～梓川公民館	松本市梓川	7名
9月8日	ふるさと探究～武蔵野第六中1年	豊科重柳	76名
10月29日	第33回ふるさとウォッチング	穂高柏原	22名
11月3日	ふるさと探究～三角島	三角島	25名
11月7日	ぬかくど体験～二子小3年	松本市二子	32名
12月5日 ～6日	ふるさと探究～堀金小3年	堀金烏川	58名

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : ふるさと探究～豊科北中2年

理由 : 観光をテーマにした全6回の地域探究講座で、班毎のフィールドワークでまちの魅力を掘り起こし、謎解きリーフレットを作成した。

団体名	アルプスあづみの公園管理センター
-----	------------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月23日 ～10月21日 計2回	やまこの教室	国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区	延べ 217名
5月21日 ～11月3日 計8回	田んぼの教室	国営アルプスあづみの公園堀金・穂高地区	延べ 284名

5月13日 ～9月3日 計5回	里山いきもの教室	国営アルプ スあづみの 公園堀金・ 穂高地区	延べ 54名
9月10日	魅惑のゲンゴロウ探し	国営アルプ スあづみの 公園堀金・ 穂高地区	23名

団体名	アルプス花街道実行委員会
-----	--------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
5月20日	マリーゴールド苗の配付・定植	市内9か所他	1,210名
7月19日	看板お披露目	安曇野市役所	17名
8月18日	活動箇所の巡視	市内9か所他	9名
9月2日	看板受け渡し	安曇野市役所	約15名
1月12日	区画の現地確認	安曇野 IC 北 区画	8名

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 看板お披露目

理由 : デザインから加工及び塗装まで全て三校（穂高商業高校、南安曇農業高校、木曾青峰高校）と協力し作製した。

団体名	烏川溪谷緑地 環境管理事務所
-----	----------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月8日	カタクリ群生地昆虫報告会	森林学習棟	23名
4月16日	カタクリ観察会	森林エリア	20名
4月22日	《第155回からすの学校》 オオルリ観察会	水辺エリア	21名
5月6日	《第156回からすの学校》 野鳥観察会	水辺エリア	14名
6月25日	《第157回からすの学校》 アブラムシ探究会	水辺エリア	17名
7月9日	《第158回からすの学校》 植物写真教室ワークショッププラス映像詩	水辺エリア	11名
7月16日	《第159回からすの学校》 ようこそ！植物探求会へ	水辺エリア	20名
7月22日	昆虫観察会 昆虫の目から見た棲みよい森づくり	水辺エリア	13名
10月1日	烏川の堰の歴史ガイド・秋	水辺エリア あづみの公園	6名
10月7日 8日	烏川溪谷緑地開園20周年記念イベント	堀金体育館 サブアリーナ	700名
12月10日	《第160回からすの学校》 ニホンザル学習会	水辺エリア	21名
12月15日 ～17日	はじめてのコケテラリウムづくり	水辺エリア	15名
1月7日	新月伐採	森林エリア	30名
1月28日	《第161回からすの学校》 真冬のアニマル・トラッキング	水辺エリア	17名

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 烏川溪谷緑地開園20周年記念イベント
 理由 : 安曇野環境フェアと同時開催させていただくとともに、各団体の協力もあり様々なイベントや展示を行うことができ、多くの来場者にめぐまれた。

団体名	三角島ふるさとの森プロジェクト
-----	-----------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
6月18日 7月29日 8月26日 9月30日 10月21日	三角島清掃活動	三角島	延30名
10月7日 8日	環境フェア	堀金総合 体育館	—
11月3日	親子で楽しむ三角島探検	三角島	33名

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 親子で楽しむ三角島探検
 理由 : 普段立ち入らない場所で、親子で自然観察が楽しめた。

団体名	NPO 法人 信州ツキノワグマ研究会
-----	--------------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
5月3日	三郷小倉あそびの広場 小倉山城址登山 におけるクマレクチャー	小倉山	約30名
10月7日 8日	・安曇野環境フェア ブース展示 ・烏川溪谷緑地 20周年イベントにおける クマ解説	堀金総合 体育館	冊子配布 約100名
11月18日 19日	松本市市民活動フェスタ	松本市立 博物館	冊子配布 約100名
今年度	その他、茶臼山動物園でのブース出店 安曇野市外の教育機関（保育園・小中高） の20校程度で授業を実施	—	—

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 松本市市民活動フェスタ

理由 : ちょうどクマの出没が相次いだ時期だったため、興味を持つ参加者が多く、出没の理由や対策方法などについて話を聞いて行かれる方が多かった。

団体名	生活協同組合コープながの
-----	--------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
5月20日	国際協力田協力田田植え	JA あづみ 圃場	17名
6月23日	生きもの探しをアプリでやってみよう！	国営アルプス あづみの公園	20名
7月29日	川の生きもの調査	せせらぎ	23名
10月7日 8日	安曇野市環境フェア 2023	堀金総合 体育館	展示のみ
10月29日	里山の草花と竹筒で万華鏡づくり	長峰山	13名
12月2日	国際協力田協力田米発送式	JA あづみ営 農センター	5名

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 川の生きもの調査

理由 : みんなで川の生きものを探して観察会を実施。資料を手に講師の先生から詳しい虫の生態や生息環境について教えていただいた。企画を通じて、川
の環境を大切に思う気持ちを育むことができた。また、子ども用のライフ
ジャケットを安曇野市よりお借りし、安全に遂行することができた。

団体名	田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」
-----	------------------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月15日	開講式・オリエンテーション ・田淵館見学 雨天により観察会は中止	ビレッジ安曇野・田淵記念館	35名
5月20日	安曇野市の天然記念物 オオルリシジミの観察	国営アルプスあづみの公園 (堀金・穂高地区)	27名
6月10日	初夏の昆虫観察	県営烏川溪谷緑地 (水辺エリア)	23名
7月8日	雨天により観察会は中止 室内で座学	豊科近代美術館	25名
8月5日	夜の昆虫観察(ライトトラップ)	県営烏川溪谷緑地 (水辺エリア)	27名
9月9日	初秋の昆虫観察	黒沢洞合自然公園	28名
10月14日	秋の昆虫観察	県営烏川溪谷緑地 (水辺エリア)	34名
11月11日	晩秋の昆虫観察	松本市アルプス公園	26名
12月2日	冬の水鳥観察会 (講師:丸山隆さん)	明科御宝田遊水地	24名
2月25日	自然講演会・修了式 (講師:キョロロ研究員加藤大智氏)	三郷公民館 (三郷昆虫クラブと共催)	むしの会 参加者

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 安曇野市の天然記念物オオルリシジミの観察

理由 : 絶滅の危機に瀕しているチョウの観察は、子どもも保護者も関心が高かった。

団体名	マイ箸づくりサポートボランティア
-----	------------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
10月7日 8日	環境フェア 2023	—	—

団体名	特定非営利活動法人 森倶楽部 21
-----	-------------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
5月26日	明科高校長峰山遠足（1学年+教員）	長峰山	約100名
6月17日	JUON「安曇野森林の楽校 2023 初夏」	長峰山	9名
8月11日	内部研修会	山梨県 乙女高原	10名
9月12日	指標植物調査	長峰山	13名
10月7日 8日	安曇野環境フェア 2023	堀金総合 体育館	のべ7名
10月29日	森林の里親契約 「コープながの森のがっこう」	長峰山	26名

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 森林の里親契約「コープながの森のがっこう」

理由 : 親子が協力して竹筒万華鏡を作り、それを持って森の中を歩いて自然を観察した。里山に関心を持っていただく良い機会であった。

団体名	屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト
-----	-------------------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
10月7日 8日	環境フェア	堀金総合 体育館	—
11月23日	屋敷林見学会と落ち葉拾いボランティア	三郷・布山邸	17名
2月24日	安曇野屋敷林フォーラム2024	豊科交流学習 センター	100名

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 安曇野屋敷林フォーラム2024

理由 : 屋敷林と歴史的なまちなみを通し、未来の生活を考えられるイベントとして好評。

団体名	野生生物資料情報室
-----	-----------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月21日	野鳥観察会（穂高公民館主催） 入門編	鐘の鳴る丘	17名
4月22日	オオルリ観察会（水辺エリア・座学と観察会）	烏川溪谷緑地	18名
6月24日	ライチョウ観察会（座学と観察会）	燕岳	10名
6月28日	ライチョウ観察会（座学と観察会）	燕岳	6名
1月28日	アニマルトラッキング（座学と観察会） 一般対象	烏川溪谷緑地	17名

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

イベント・講座名 : 野鳥観察会

理由 : 野鳥だけでなく春の花や昆虫など総合的に解説した。

団体名	やまこの学校
-----	--------

日付	イベント・講座名	会場	参加人数
4月23日	オリエンテーション 飼育林準備	国営アルプス あづみの公園 堀金口やまこ 飼育林	14名
5月14日	やまこ卵の糊付け 山付け	国営アルプス あづみの公園 堀金口休憩所 飼育林	17名
6月3日	幼虫観察	国営アルプス あづみの公園 堀金口やまこ 飼育林	17名
6月24日	切換えし	国営アルプス あづみの公園 堀金口やまこ 飼育林	10名
7月9日	収穫	国営アルプス あづみの公園 堀金口やまこ 飼育林	15名
8月11日	成虫観察	国営アルプス あづみの公園 堀金口広場	30名
8月26日	糸作りワークショップ	国営アルプス あづみの公園 クラフトゲート 匠の杜	20名
9月2日	コサージュ製作体験	国営アルプス あづみの公園 堀金口休憩場	18名
10月1日	織り糸作り体験	国営アルプス あづみの公園 堀金口休憩場	13名

10月9日 10月21日	織り体験	国営アルプス あづみの公園 クラフトゲート 匠の杜	21名
-----------------	------	------------------------------------	-----

特に来場者からの反響が大きかった活動とその理由

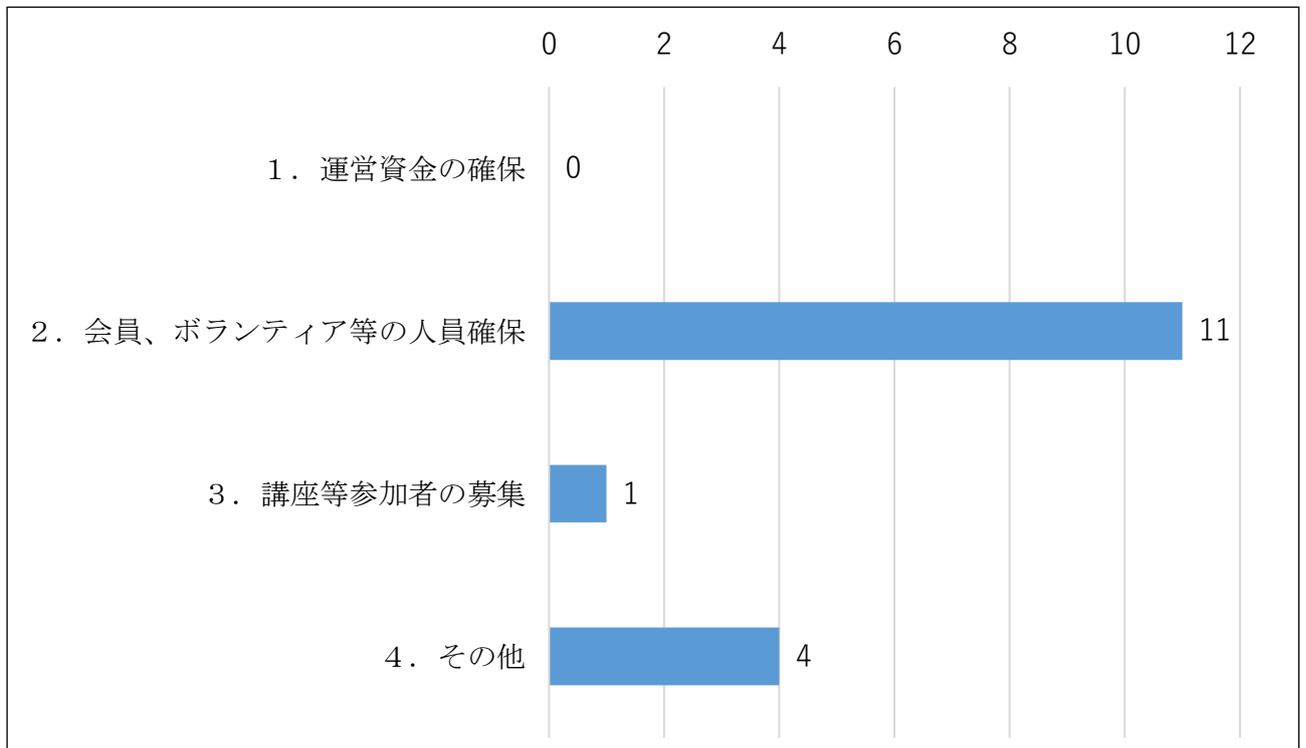
イベント・講座名 : 6講 成虫観察

理由 : 上記については公開講座で他の団体と一緒にいき、やまこの羽化観察の他にライトトラップに飛来する昆虫の説明もあり、子供たちが大勢参加して大盛況であった。

【問】 貴団体の運営、イベント・講座等の実施にあたり、課題と感じていることは何ですか。

1～4のうち一つ選んで、回答欄に記入してください。

- 1. 運営資金の確保
- 2. 会員、ボランティア等の人員確保
- 3. 講座等参加者の募集
- 4. その他 ()

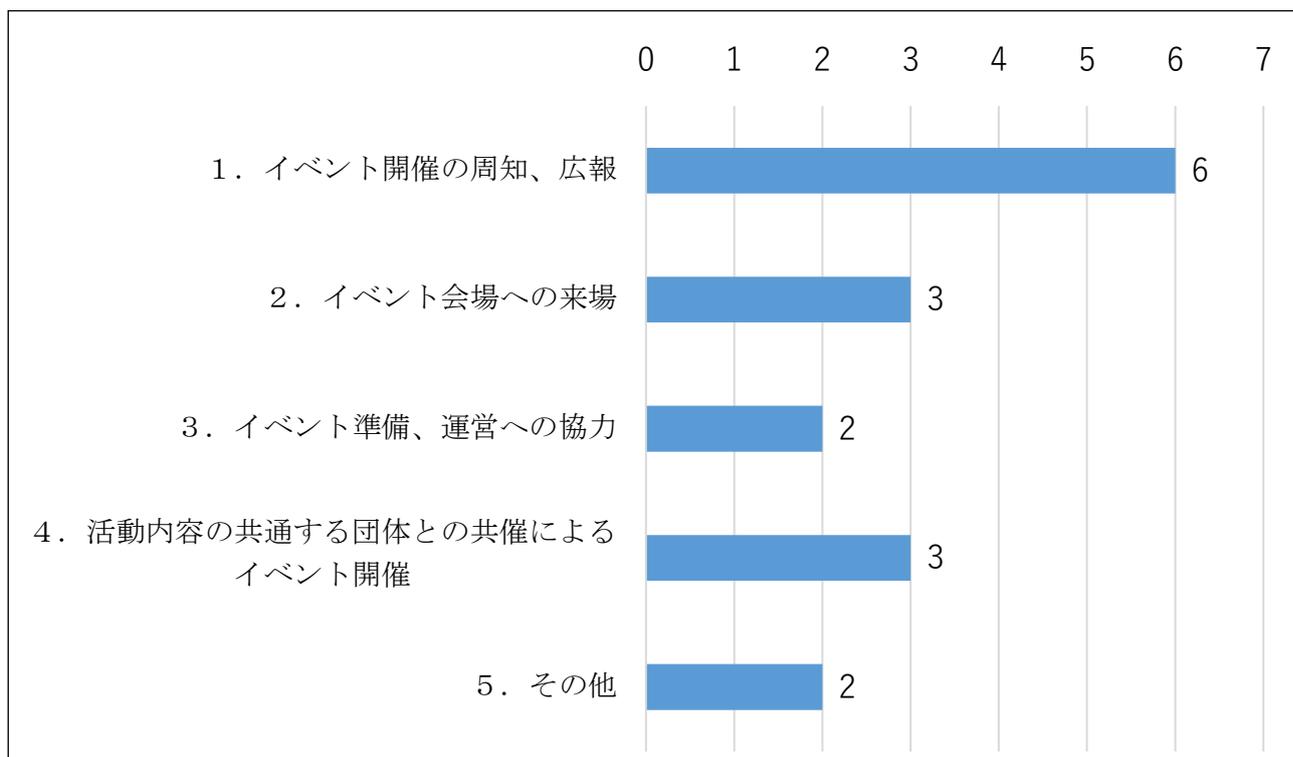


その他記述

- ・団体数の減少や各団体による区画の維持管理体制の低下等により、空き区画が発生し、良好な景観形成の維持が課題となっている。(アルプス花街道実行委員会)
- ・限られた人数で、他の業務と並行してイベントの準備・対応等を行わなければならないため。(烏川渓谷緑地環境管理事務所)
- ・観察指導を行う後継者の育成(田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」)
- ・特になし(野生生物資料情報室)

【問】貴団体がイベント・講座を実施する際、他のネットワーク登録団体や環境審議会などにどのようなことを期待しますか。1～5のうち一つ選んで回答欄に記入してください。

1. イベント開催の周知、広報
2. イベント会場への来場
3. イベント準備、運営への協力
4. 活動内容の共通する団体との共催によるイベント開催
5. その他()



その他記述

- ・他団体の開催イベントなどの情報をいただければ、会員に告知させていただきます。(田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」)
- ・特になし(野生生物資料情報室)

【問】 その他、今後安曇野環境市民ネットワークとして取り組んでみたい活動、環カフェの内容などがありましたら、ご自由にご記入ください。(例：記念講演会、イベント参加)

- ・分別資源（ゴミ）のその後（流通経路）、現在の行く先・会社名・場所と再生製品はなんであるか市広報などで広く知らせて下さい。(安曇野市消費者の会)
- ・小中学生を対象とした地域学習活動（NPO 法人 安曇野ふるさとづくり応援団）
- ・シナノタンポポの保全に関する見識を深められる講座など（アルプスあづみの公園管理センター）
- ・自然環境保全を題材とした環境教育プログラム（イベント）（アルプスあづみの公園管理センター）
- ・30by30 の推進などに関連して、生物多様性に関連するイベントなどがあれば、協力できることもあるかもしれませんが、単体で企画するのは少々難しいのが現状です。(NPO 法人 信州ツキノワグマ研究会)
- ・日頃、諸団体の情報の発信をいただきありがとうございます。諸団体同士の横のつながりが生まれるよう、行政や諸団体の情報発信を進めていただければと思います。(生活協同組合コープながの)
- ・令和 6 年度に「むしの会」活動 30 周年を迎えるので、記念事業などを考えたい。(田淵行男記念館こども自然観察教室「むしの会」)